令和7年度

授業名	文化史概論	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 必修
担当教員名	◎桑野　聡 福島　寅太郎 知野　愛 會田　容弘		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①必要な文化史的知識を習得させること。 ②幅広い専門的知識を養わせること。 ③文化史関係の文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。 〔授業全体の内容の概要〕 　前期(桑野)は歴史学の学びを理解するために史学史を概観する。近代歴史学の形成と発展を確認することで「文化史」が持つ意味を理解し、各自の研究の方法論を理解する一助としたい。 後期（福島）は、末木文美士氏の『日本宗教史』（岩波新書）を教科書として使い、毎回輪読をし、日本宗教の歴史と文化を学ぶ。新書版だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉、わからない用語が多々ある。一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なくなってきた今日では、一冊の本を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。 　授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。　　CS2101		
授業の到達目標	〔授業終了時の到達目標〕 前期の歴史学史の学びを踏まえて、専攻科学生各自の研究テーマの研究史をレポートにまとめることを前期分の単位認定の最低基準とする。 後期は、①文化としての宗教を理解する。 ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。③紹介された諸事例について学問的な理解をする。 　ディプロマ・ポリシーとの関係：専門知識、研究能力		
履修条件	短大専攻科文化学専攻1年	**成績の 評価方法・基準**	前後期レポート（各50点）
テキスト	前期は、桑野聡「歴史学と「文化学」の形成－郡山女子大学短期大学部文化学科の試み」（『郡山女子大学紀要』第55集　2019年）を配布する。 後期は、末木文美士『日本宗教史』岩波新書　2006年を購入。		
参考書	随時提示する。		
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	前期ガイダンス	本講義の進め方を解説する。	授業の進め方を良く理解し、次回からの準備を整える。	30
2	文化学科の歴史	テキストの「はじめに」を手掛かりに本専攻科の母体であった文化学科の歴史を材料に「歴史を書く」とはどういうことかを解説する。	史料となる学園史や『文化学科資格課程報告集』を実際に手を取って内容確認をしてみる。	120
3	近代以前の歴史①	テキスト第1章「歴史叙述のはじまり　(1)神話」を材料に、歴史と宗教の関係について解説する。	日本神話や自分の知っている神話の事例を確認しておこう。	60
4	近代以前の歴史②	テキスト第1章「歴史叙述のはじまり　(2)メルヘン」を材料に、歴史と物語の関係について解説する。	従来のメルヘン研究と歴史学のメルヘン研究の違いを考えるために、参考文献を手に取ってみよう。	60
5	近代以前の歴史③	テキスト第1章「歴史叙述のはじまり　(3)世界年代記」を材料に、中世のキリスト教と歴史の関係について解説する。	聖書の歴史観・歴史像を知るために『旧約聖書』の「創世記」などを読んでみよう。	60
6	近代以前の歴史④	テキスト第1章「歴史叙述のはじまり　(4)都市年代記」を材料に、世俗の歴史叙述と歴史の関係について解説する。	巡礼や十字軍、経済活動などが外の情報をもたらし、当時の人々の世界観・歴史観を変えていくプロセスを考えてみよう。	60
7	近代以前の歴史⑤	テキスト第1章「歴史叙述のはじまり　(5)人文主義～啓蒙主義の歴史叙述」を材料に、中世から近代への移行期の歴史叙述について解説する。	近代的価値観（人間中心・現世肯定）の普及によって「知ること」や「知識」の意味が変わるということを考えてみよう。	60
8	近代歴史学①	テキスト第2章「近代歴史学の誕生と発展　(1)ランケ史学と政治史」を材料に、19世紀の歴史学の誕生を解説する。	なぜ、国家や為政者の歴史が重要なのかを考えてみよう。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	近代歴史学②	テキスト第2章「近代歴史学の誕生と発展　(2)文化史の展開」を材料に、本学の「文化学」に繋がる「文化史」について解説する。	ホイジンガの著作『ホモ・ルーデンス』や『中世の秋』などを手に取ってみよう。	60
10	近代歴史学③	テキスト第2章「近代歴史学の誕生と発展　(3)唯物史観・マルクス史学と社会経済史」を材料に、社会主義・共産主義思想を政治的問題とは別の視点で解説する。	「大衆」や「民衆」という存在を歴史に描こうとする時の問題点を考えてみよう。	60
11	近代歴史学④	テキスト第2章「近代歴史学の誕生と発展　(4)比較文明学とグローバル・ヒストリー」を材料に、大きなスケールでの歴史理解の試みについて解説する。	ハラリの『サピエンス全史』など、最近話題の本を手に取ってみよう。	60
12	近代歴史学⑤	テキスト第2章「近代歴史学の誕生と発展　(5)アナール学派と社会史の試み」を材料に、現在の歴史学の主流となっている「社会史」について解説する。	アナール学派は思考する「全体史」のイメージを理解しよう。	60
13	近代歴史学⑥	前回に続いてアナール学派と社会史について、その課題について解説する。	実際に図書館や大型書店で社会史の本を手に取ってみよう。	60
14	現代の歴史学	テキスト「おわりに」を材料に、現代の歴史学で注目される動向について解説する。	新聞の書評欄などに目を向けてみよう。	60
15	まとめ	前期の歴史学の歴史に関する講義を振り返り、まとめとする。	課題レポートについて、各指導教員と相談してしっかり準備しよう！	60
16	後期ガイダンス	絵画に見る「天神さま」について		90
17	天神信仰における東福寺の位置づけについて	東福寺における天神信仰の伝承を探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
18	天神像の変容について	怨霊信仰から学問の神様への「変身」についての歴史的な過程をたどる	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
19	怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
20	天神信仰と陰陽道について	陰陽道の動向を視野に入れつつ、天神信仰の展開をさらに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
21	梅と天神信仰	菅原道真像を手がかりに梅と天神の変容のあり方を探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
22	北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
23	学問の神様としての菅原道真像の形成	学問の神様としての菅原道真像の形成とその確立について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
24	天神信仰の広がりについて	天神信仰の地方への広がりについて具体的な事例を取り上げて述べる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
25	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の実体を写真などを通じて探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
26	会津地方における天神信仰の特徴	学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実体とその特徴について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
27	庶民信仰としての天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
28	天神信仰の現在ー地方神社における合格祈願を手がかりにー	神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
29	まとめ～その①天神信仰の宗教性と歴史的性格	まとめに当たって、天神信仰の宗教性と歴史性、地方的特徴について考える。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90
30	まとめ～其の②天神信仰の宗教性と歴史性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。	教科書と参考文献を読み、理解すること	90

令和7年度

授業名	日本宗教の歴史と文化	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員名	◎福島　寅太郎		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①文化学専攻の学生として必要な文化知識を習得させること。 ②幅広い専門知識を養わせること。 ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。 〔授業全体の内容の概要〕 　この授業は、毎回配布した研究資料や論文を用いて講義し、それらを通して、日本宗教の歴史と文化を学ぶ。活字だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉やわからない用語が多々ある。引用文献まで一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なくなってきた今日では、活字の研究資料や論文を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。なお、後期の概要については改めてお知らせする。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。		
授業の到達目標	〔授業終了時の到達目標〕 　①文化としての宗教を理解する。 　②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。 　③紹介された諸事例について学問的な理解をする。 　単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」		
履修条件	短大専攻科２年	**成績の 評価方法・基準**	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度８割で、合とする。
テキスト	個別に指定しない。しかし、末木文美士の『日本宗教史』が手頃の値段で購入できる。岩波新書、2006年。丸善などの書店で買い求めることが出来る。		
参考書	辻善之助の『日本仏教史』中世編・近世編、家永三郎の関連研究書、黒田俊雄の『王法と仏法』、平雅之行の『日本中世の社会と仏教』、末木文美士の『日本宗教史』などが参考になる。		
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準	位置づけ・水準:CS2201		
ディプロマポリシーとの関係	DPとの関係: 研究能力、研究課題		
オフィスタイム	月曜日以外のお昼休みの時間		
アクティブラーニング実施内容	自ら文献調査を行うこと		
実務家教員の経歴	該当しない		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定ですので、必ず出席してください。	参考文献を読み、理解すること	1.5
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場による日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。	参考文献を読み、理解すること	1.5
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。	参考文献を読み、理解すること	1.5
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。	参考文献を読み、理解すること	1.5
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しそうとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本霊異記』を参考しながら授業を進める予定である。	参考文献を読み、理解すること	1.5
6	神仏と中世（１）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	参考文献を読み、理解すること	1.5
7	神仏と中世（２）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	参考文献を読み、理解すること	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	世俗と宗教（1）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	参考文献を読み、理解すること	1.5
9	世俗と宗教（2）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	参考文献を読み、理解すること	1.5
10	神道とナショナリズム（1）	近世の神道の展開などを話題にしながら、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	参考文献を読み、理解すること	1.5
11	神道とナショナリズム（2）	近世の神道の展開などを話題にしながら、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	参考文献を読み、理解すること	1.5
12	近代化と宗教（1）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。	参考文献を読み、理解すること	1.5
13	近代化と宗教（2）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。	参考文献を読み、理解すること	1.5
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総括的に考えてみる予定である。	参考文献を読み、理解すること	1.5
15	前期のまとめ	レポートを書いて提出する。		1.5
16	後期のガイダンス	絵画に見る「天神さま」について		1.5
17	天神信仰における東福寺の位置づけについて	東福寺における天神信仰の伝承を探る	参考文献を読み、理解すること	1.5
18	天神像の変容について	禅寺における受容を踏まえ、怨霊信仰から学問の神様への「変身」についての歴史的な過程をたどる	参考文献を読み、理解すること	1.5
19	怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	参考文献を読み、理解すること	1.5
20	天神信仰と陰陽道について	陰陽道の動向を視野に入れつつ、天神信仰の展開をさらに探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
21	梅と天神信仰	菅原道真像を手がかりに梅と天神の変容のあり方を探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
22	北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
23	学問の神様としての菅原道真像の形成	学問の神様としての菅原道真像の形成とその確立について探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
24	天神信仰の広がりについて	天神信仰の地方への広がりについて具体的な事例を取り上げて述べる。	参考文献を読み、理解すること	1.5
25	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の実体を写真などを通じて探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
26	会津地方における天神信仰の特徴	学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実体とその特徴について探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
27	庶民信仰としての天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
28	天神信仰の現在ー地方神社における合格祈願を手がかりにー	神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめ～その①天神信仰の宗教性と歴史的性格	まとめに当たって、天神信仰の宗教性と歴史性、地方的特徴について考える。	参考文献を読み、理解すること	1.5
30	まとめ～その②天神信仰の宗教性と歴史性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。	参考文献を読み、理解すること	1.5

令和7年度

授業名	日本古代の歴史と文化	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員名	◎會田　容弘		
開講期			
授業の概要	文献史学と考古学的な方法により書かれた通史である佐藤信編『古代史講義』『古代史講義＜宮都編＞』『古代史講義＜戦乱編＞』『古代史講義＜氏族編＞』をテキストにして、具体的な事例を補いながら授業を進める。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準：CS2202		
授業の到達目標	＜到達目標＞日本原始・古代史の最新の文献史学・考古学的成果の理解し、それについて説明ができるレベルにまで到達できること。単位認定の基準は授業内容を7割以上理解していることが望まれる。ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題		
履修条件	考古学・古代史の基礎理解があること	**成績の 評価方法・基準**	授業への参加度を平常点とし、課題レポートを課す(平常点30%、レポート70%)。　授業の60%以上の理解が必要である。考古学で専攻科論文を作成する学生は80%以上の理解が必要である。
テキスト	佐藤信編『古代史講義』『古代史講義＜宮都編＞』『古代史講義＜戦乱編＞』『古代史講義＜氏族編＞』ちくま新書		
参考書	講義中に紹介する。		
学生への要望	授業の前に教科書を熟読し、わからない点などを確認し、ノートを作成すること。復習には授業時の内容をノートにまとめておくこと。		
位置付け・水準	古代史・考古学の知識の積み上げが必要です。		
ディプロマポリシーとの関係	発展的理解。		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	テキストを用いた授業で、事前学習が必要である。授業中に発表を求める場合がある。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	日本考古学・日本歴史学の時代区分	時代区分論は歴史観だけでなく、考古学の世界では新発見によって変化する。また、日本という枠組みの変化もある。日本列島の地域区分とその中の時代区分を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
2	邪馬台国から古墳の時代へ	魏志倭人伝を中心とした史料からみた邪馬台国	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
3	邪馬台国時代に相当する遺跡遺物	吉野ヶ里遺跡・纒向遺跡など邪馬台国に相当する時代の遺跡を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
4	前期古墳	箸墓古墳、メスリ山古墳、桜井茶臼山古墳、古墳時代前期の集落	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
5	倭の大王と地方豪族	中国の文献に登場する倭の国、及び稲荷山古墳鉄剣銘、江田船山古墳鉄剣銘など数少ない文字資料から見える古墳時代を考える。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
6	中期・後期古墳大王墓と地方豪族の墓	畿内の大王墓と推定される古墳及び、それに準じる古墳の調査資料、そこから考古学者が考えた古墳時代像を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	蘇我氏とヤマト王権	古事記、日本書紀の記述から文献史学者が復元したヤマト王権について検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
8	飛鳥の古代遺跡と大津宮	奈良県明日香村を中心にした古代飛鳥（藤原京以前）の遺跡について、検討する。宮跡、終末期古墳、寺院跡など断片資料から考古学者がどのように研究を行っているかを見る。大津宮についても、明らかになったことを検討する。橿原考古学研究所の展示品を見ながら、検討したい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
9	飛鳥・藤原の時代と東アジア	ヤマト王権が畿内政権として成立する過程を東アジアの視点から見るという考え方を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
10	藤原京	始めて作られた条坊制の都城藤原京の発掘成果を見る。飛鳥資料館の展示を見ながら検討したい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
11	藤原京の寺院遺跡	藤原京内内には薬師寺、大官大寺などの寺院が作られている。同時代の寺院及び関連遺跡を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
12	平城京の実像	文献研究から明らかにされた平城京の造営課程、都市に伴う付帯移設などがどのような形で作られていったのか、基本文献の「続日本紀」がどのようなものかなどにも触れながら、文献研究で明らかになった平城京を検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
13	平城宮・難波宮・恭仁京・紫香楽宮	考古学的調査により、平城京、難波宮、恭仁京、紫香楽宮がある。明らかになった考古学的事実を検証する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
14	平城京内の邸宅・施設	平城京域の調査は奈良文化財研究所の計画的な調査だけでなく、行政発掘の成果もある。それらの成果を見てみたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
15	平城京内の寺院遺跡	平城京内の寺院は現在も機能している唐招提寺や薬師寺、興福寺、元興寺そして東大寺がある。しかしそれらの寺院が奈良時代の建物が残っているものは唐招提寺・薬師寺東塔等だけである。発掘調査によって明らかになった奈良時代の寺院をみてみる。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
16	奈良時代の騒乱	奈良時代の政治史である。このようなテーマは文献に記された記録をもとに知る以外にない。どのような文献の記述から政治的騒乱があったのかを読み解く方法をみてみたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
17	長屋王邸宅と木簡	長屋王の変で失脚した左大臣長屋王の邸宅の発掘成果から、長屋王邸宅の遺構、木簡、遺物から文献に記された事象と考古学的事実と対比して検討する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
18	地方官衙と地方豪族	テキストでは考古資料を用いて地方官衙と地方豪族について述べている。文献研究が難しいことがよくわかる。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
19	多賀城と陸奥・出羽の城柵遺跡と附属寺院	時代は遡るが、仙台長町郡山遺跡から話は始まる。東北地方の国府は多賀城と秋田城である。古代出羽と陸奥は国境線の国であった。蝦夷との不明確な国境線には他の古代の国々とは異なる、城柵がある。東北地方ならでは城柵遺跡を発掘調査成果からみてゆく。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	陸奥国の郡衙	国の下部組織に郡がある。福島県内では二本松郡山遺跡、清水台遺跡など郡衙や駅に相当する可能性がある遺跡が発掘されている。遺跡と郡衙を繋げる研究を概観する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
21	遣唐使と天平文化	続日本紀と中国の記録などから、遣唐使の活動を記述している。まずはその記述内容を学ぶ。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
22	東大寺・正倉院研究	東大寺と正倉院には1500年の歴史が詰まっている。国家珍宝長に記載されている資料の同定作業から始まり、伝世資料の研究がある。さらに、世界の宝正倉院の資料保存の問題など、物質資料研究法を学ぶ。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
23	平安遷都と対蝦夷政策	桓武天皇即位までの天皇血統問題。考古資料では知ることのできない天皇の血筋問題。それが政治にどのように藩営しているのかを文献研究成果を見てゆく。さらに、蝦夷問題が中央でどのように見られていたのかを理解する。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
24	長岡京・平安京と寺院	考古学的研究成果は行政発掘で明らかにされるが、千年の都には千年の歴史が重層している。京都府埋蔵文化財研究センターの仕事から学びたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
25	平安時代の多賀城・城柵	蝦夷政策の最前線の考古学的成果をみてゆきたい。多賀城、秋田城、城輪柵、払田柵、伊治城、東山遺跡、城生柵、桃生城、玉造柵、色麻柵など多数ある。さらに北進した陸奥国府は胆沢城、徳丹城、紫波城である。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
26	平安時代の陸奥国生産遺跡ー鉄・須恵器・瓦・塩ーと寺院	鉄生産は福島県相馬市一帯に広がる製鉄遺跡群横大道製鉄遺跡などである。須恵器・瓦窯は多賀城関連の台原窯跡、日出山瓦窯、木戸瓦窯などである。製塩遺跡は松島湾沿岸の製塩遺跡が挙げられる。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
27	平安京の成熟と都市王権の展開・摂関政治の実像	平安時代を特徴づける貴族政治を文献史学の研究成果から理解を深めたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
28	国風文化と唐物の世界・受領と地方社会	平安時代の王朝文化を彩る国風文化とそれを支えた地方経済について、文献資料成果を見てゆきたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
29	平安時代の集落：笹山原遺跡	郡山女子大学短期大学部で20年間発掘して見えてきた土師器生産集落の姿を、文献史学の成果を学んだあとで、考古学の成果をみて、そのギャップを知ってもらう。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60
30	平将門・藤原純友の乱の再検討、平泉と奥州藤原氏	古代の終末について、文献史学研究成果を学ぶ。時間があれば、世界遺産となった奥州平泉の発掘成果を見てゆきたい。	テキストを事前に読んでおき、授業部分を要約しておくこと。発表させる場合がある。授業終了後関連資料を例示するので、調べて置き次回の授業に備えること。発表させる場合がある。	60

令和7年度

授業名	日本近世の歴史と文化	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎佐藤　愛未		
開講期			
授業の概要	江戸時代において将軍の住居兼幕府の政が行われた場所、江戸城。この江戸城の中心でもあった本丸御殿は、用途によって表・奥・大奥と三区分された。それぞれの構造からみた江戸幕府の政治・制度のありかたについて、江戸城の本丸御殿の役割とともに学ぶ。 また、江戸時代約270年間、天下の泰平と政治の安定が続いたのはなぜであったのか。江戸時代に設けれた様々な仕組みなどに関する史料の読み方とあわせて学んでいく。 決められた課題について、学生が調査し口頭発表し、教員とのゼミナール形式に授業をすすめる。 なお、学期末ごとにフィードバックを行います。		
授業の到達目標	江戸時代における、江戸城の役割、行政と社会の仕組みについて理解する。また、口頭発表を通して、文章講読や要約方法、史料の読み方などを学び、他者に伝える力を養う。を達成目標とします。 単位認定の最低基準は、 ①授業内容の７割を理解していること。 ②資料読解の基礎を７割理解していること。		
履修条件	専攻科1年生	**成績の 評価方法・基準**	①研究課題が適切で調査研究が主体的、継続であり、口頭発表では研究課題を克服し、合理的な思考力でなされていること30点 ②レポート70点(前期後期2回、各35点満点)
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	深井雅海『江戸城』中公新書、2008年 藤田覚『泰平のしくみ』岩波書店、2012年　ほか適宜指示をする		
学生への要望	予習復習を行い、問題関心・探究心をもって授業に出席すること。		
位置付け・水準	CS2102		
ディプロマポリシーとの関係	専門知識・研究能力		
オフィスタイム	月曜日のⅠ時間目・水曜日のⅡ時間目。創学館4階、№5研究室		
アクティブラーニング実施内容	史料講読・個別発表		
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の導入として、授業の舞台となる江戸時代は約270年間、天下の泰平と政治の安定が続いた。江戸時代とはどのような時代であったのかを概説し、史料を読み方と授業計画を説明する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	江戸城の概要	授業内容の説明と史料を読み方の導入。江戸城の構成と本丸御殿、江戸城の歴史と構成、江戸城の中心であった本丸御殿の概要を紹介し、本丸御殿への登城について説明する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	「表」の役割（1）	本丸御殿の「表」で行われる、将軍との関係を表徴する殿中儀礼で使用される「空間」と大名の殿席・官位について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	「表」の役割（2）	江戸城で実施される年中行事、その際に使用される大名の礼席などについて学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	「表」の役割（3）-1	江戸城で実施される年中行事のなかからいくつか具体例を取り上げ、大名と諸役人の役割や礼席について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
6	「表」の役割（3）-2	諸大名の官位昇進運動の具体例を紹介し、殿中儀礼でも重要視される殿席・官位について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	「表」の役割（4）	本丸御殿の「表」の構造から、江戸幕府の職制や江戸城に登城する役人の詰所を検証し、政治の仕組みについて学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	「表」の役割（5）	「表」の長官とされる老中、老中を支える若年寄やその秘書官とされる奥右筆とそれらが関係する法令伝達の流れについて学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	「表」の役割（6）-1	行政と司法の中心である三奉行と大小目付や勘定所について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	「表」の役割（6）-2	近世期において、勘定所等の司法機関で取り扱われる訴訟や紛争の解決のプロセスについて学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	「表」の役割（6）-3	江戸城下の江戸町屋敷地に住む町人を管轄した町奉行所と町奉行について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	「表」の役割（6）-4	町奉行の行政について、町奉行の史料を読みながら具体的に学ぶ。①	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	「表」の役割（6）-5	町奉行の行政について、町奉行の史料を読みながら具体的に学ぶ。②	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	「表」の役割（6）-6	江戸城で実務的に重要な役割とされる、武官や坊主などについても紹介し、「表」における政務処理の仕組みについて学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	「奥」の役割（1）	将軍の執務・生活空間は一般的に「中奥」と呼ばれるが、幕府の日記には「奥」と記されている。いつからそう呼ばれるようになったのか、そして「奥」の構造から将軍の生活について探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
16	「奥」の役割（2）-1	将軍の情報源として設置された「目安箱」と「御庭番」を中心に民間献策と幕府行政との関係について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
17	「奥」の役割（2）-2	幕府の政策と民間献策について学び、そのなかで目安箱がどのように活用されていったのかを確認する。①	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
18	「奥」の役割（2）-3	幕府の政策と民間献策について学び、そのなかで目安箱がどのように活用されていったのかを確認する。②	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
19	「奥」の役割（3）	「奥」での将軍との謁見の仕方を大名・諸役人についてそれぞれ学び、あわせて「奥」の構造から将軍の生活について探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	「奥」の役割（4）-1	将軍の執務・生活空間である「奥」だが、将軍やその側近が政治の主導権を握っている場合には奥が政治の舞台となる「奥政治」が展開された。まず、柳沢吉保や間部詮房らが台頭した4代将軍綱吉～7代将軍家綱の実態について検証する。この回では、5代将軍綱吉時代に台頭した側用人の柳沢吉保を中心に探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
21	「奥」の役割（4）-2	前回授業に引き続き「奥政治」について学ぶ。この回では6代将軍家宣～7代将軍家綱の頃に台頭した側用人の間部詮房と新井白石から探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
22	「奥」の役割（5）-1	御三家である紀伊徳川家の出身である8代将軍吉宗の「奥政治」について、その実態について新設された制度や役職などから検証する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
23	「奥」の役割（5）-2	紀伊系幕臣が台頭する9代将軍家重の頃について、側近である田沼意次を中心に当時の「奥政治」の実態を学び、「奥政治」について考える。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
24	「大奥」の役割（１）	「大奥」の構造と将軍の寝室・御台所の生活空間、またそこで生活する将軍の側室や将軍の生母について学ぶ。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
25	「大奥」の役割（２）	「大奥」における職制と大奥女中の生活、大奥勤務の男性役人が詰めた広敷について探る。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
26	江戸城の役割	江戸時代において政治の舞台となった本丸御殿のもつ役割について総括する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
27	江戸時代をささえた仕組み（１）	江戸時代の社会や行政をささえた仕組みの一つである、請負について学び、民間請負とその請け負うまでの決定プロセス（入札）について学ぶ。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
28	江戸時代をささえた仕組み（２）	競争入札などで請負が確定したのちに、どのように事業が進められるのかなど史料を用いて学ぶ。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
29	江戸時代をささえた仕組み（３）	民間請負の中で発生する諸問題（贈収賄や手抜き工事、不正など）について学ぶ。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
30	後期まとめ	江戸時代について、前期後期の内容をもとに考える。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

令和7年度

授業名	日本近代の歴史と文化	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎佐藤　愛未		
開講期			
授業の概要	お雇い外国人である、ドイツ人外交官のオットマール・フォン・モールは明治20(1887)年に来日し、東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入した人物である。明治天皇の宮中に勤務した際の記録には、モール自身の仕事の他にも明治20年代の文明開化の諸相が、宮中のみならず日本各地の景色や風俗を交えてきめ細やかに描かれている。その記録から明治政府の文明開化政策とモールが描く日本文化について考える。モールの記録から明治20年代における宮中や日本各地の文明開化の諸相と彼からみた日本文化について講義する。 また、明治時代に作成された史料(諸記録や新聞・旅行記)読みながら当時の日本の様子について学ぶ。 なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。		
授業の到達目標	現在の日本における暮らしについて明治の文明開化が契機となっていることを理解する。外国人からみた日本文化の評価から、日本独自の文化について再認識する。また、多様な史料を読み解く力を身につける。を達成目標とします。 単位認定の最低基準は、 ①授業内容の７割を理解していること。 ②資料読解の基礎を７割理解していること。		
履修条件	専攻科１年生	**成績の 評価方法・基準**	①研究課題が適切で調査研究が主体的、継続であり、口頭発表では研究課題を克服し、合理的な思考力でなされていること30点 ②レポート及び口頭発表　70点(前期後期2回、各35点満点)
テキスト	プリントを随時配布する。		
参考書	オットマール・フォン・モール『ドイツ貴族の明治宮廷記』（講談社学術文庫、2011年） 郡山市『郡山市史』第4巻近代(上)（1969年）、第9巻資料(中)（1970年）ほか適宜、指示する。		
学生への要望	問題意識・目的意識や興味関心を持ち受講することを望むこと。また事前学修、事後学修に各１時間をとること。		
位置付け・水準	CS2103		
ディプロマポリシーとの関係	専門知識・研究能力		
オフィスタイム	月曜日のⅠ時間目・水曜日のⅡ時間目。創学館4階、№5研究室		
アクティブラーニング実施内容	史料講読・個別発表		
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方（ガイダンス）	オットマール・フォン・モールが日本に招かれた背景や来日当時の政治・社会情勢などについて解説する。また、授業計画などの説明を行う。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	宮中の様子（１）	モールの日本到着前後における印象について考え、彼の記録から当時の宮中の様子を検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	宮中の様子（２）	宮中では洋式宮中宴会が開かれることが多々ある。外国からの賓客をもてなすため導入された、宮中の食事や作法における西洋化について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	宮中の様子（３）-1	日本には古代より中国の位階、爵位を模範としていた。しかし、明治維新をむかえ、西洋式も取り入れられる。日本独自の爵位と華族の称号について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	宮中の様子（３）-2	爵位と華族令に関する史料を読み、そこから当時の爵位と華族について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。発表準備に取り掛かる。	30
6	宮中の様子（４）-1	日本の勲章制度について、幕末から明治期にかけて日本での導入が行われた。その歴史や種類などについて、史料をもとに確認する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	宮中の様子（4）-2	日本の勲章制度について、幕末から明治期にかけて日本での導入が行われた。その歴史や種類などについて、フォンモールはどのように関わっていったのかを探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	宮中の様子（5）	日本にも明治20年代になると西洋建築の建物が立ち並ぶようになる。これらの建築と内装についてモールの視点から当時の様子を検証する。また、当時の皇居や中央官庁を中心とした、東京市のまちづくり計画についても触れる。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	宮中の様子（6）-1	当時の日本において、内外人と応接する宮廷人の衣裳問題は政治問題であった。そのため、政府はモールに期待するが、彼は日本の民族衣装を尊重する発言をした。この問題から当時の洋装の重要性について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	宮中の様子（6）-2	明治20年前後の婦女服制に関する史料を読解し、当時の日本における、洋装への考え方の一端について検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	宮中の様子（7）	モールが当時直面した宮中における明治政府が推進した西洋化の様子、また、その諸問題について、総括する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	日本各地の様子(1)～東京～	来日した直後、また生活の中で触れた東京の様子から、当時の文明開化について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	日本各地の様子(2)～神戸・大坂・奈良～	モールは京都の情報収集のため、関西に旅行にでた。その際合わせて赴いた、当時の神戸・大坂・奈良の様子を文明開化の影響やそれぞれの歴史と共に検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	日本各地の様子(3)～京都～	京都において京都御所をはじめとした西洋とは異なる美術・建築・風景にモールは感銘を受ける。彼が思案した京都という空間と文化について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。発表準備に取り掛かる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	日本各地の様子(4)～滋賀～	関西旅行の帰路で立ち寄った滋賀の記録では、日本の風景や自然とあわせて、交通に関する様子なども描かれている。当時の交通整備の様子などについて考える。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
16	お雇い外国人について　課題発表（1）	幕末から明治期にかけて、日本に招聘されたお雇い外国人を学生がそれぞれ調査して、その中から興味をもったお雇い外国人を選び、当時の政策や方針などとあわせてパワーポイントを用いて報告する。①	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
17	お雇い外国人について　課題発表（2）	幕末から明治期にかけて、日本に招聘されたお雇い外国人を学生がそれぞれ調査して、その中から興味をもったお雇い外国人を選び、当時の政策や方針などとあわせてパワーポイントを用いて報告する。②	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
18	お雇い外国人について　課題発表（3）	幕末から明治期にかけて、日本に招聘されたお雇い外国人を学生がそれぞれ調査して、その中から興味をもったお雇い外国人を選び、当時の政策や方針などとあわせてパワーポイントを用いて報告する。③	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
19	日本各地の様子(5)～名古屋・静岡・箱根～	関西旅行の帰路で立ち寄った名古屋・静岡・箱根の記録では、日本の風景や自然とあわせて、交通に関する様子なども描かれている。また、モールは日本滞在中に何度か箱根を訪れており、記録には富士登山や芦ノ湖周辺などの様子が詳細に描写されている。現在も観光地として有名な箱根周辺の当時の様子について紹介する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
20	日本各地の様子(6)～福島～	モールは日本滞在中に福島にも訪れ噴火直後の磐梯山登山を行っている。磐梯山噴火に関する資料をもとに、当時の自然災害と報道の在り方、義捐金募集の様子について紹介する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
21	明治20年代の様相についてまとめ	モールが日本で触れた文明開化の様子と日本独自の文化、また景色について、彼の視点・思考から統括する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が	30
22	明治時代の史料を読み解く（1）	福島県内の資料館で所蔵されている、近代の文書史料をよみ、明治期の福島の様子について探る。①	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	明治時代の史料を読み解く（２）	福島県内の資料館で所蔵されている、近代の文書史料をよみ、明治期の福島の様子について探る。②	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
24	明治時代の史料を読み解く（３）	福島県内の資料館で所蔵されている、近代の文書史料をよみ、明治期の福島の様子について探る。③	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
25	明治時代の史料を読み解く（４）	福島県内の資料館で所蔵されている、近代の文書史料をよみ、明治期の福島の様子について探る。④	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
26	明治時代の史料を読み解く（５）	福島県内の資料館で所蔵されている、近代の文書史料をよみ、明治期の福島の様子について探る。⑤	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
27	明治20年代の日本社会と地域の様子（１）課題発表	フォンモールが日本滞在中に体験した日本の行事や文化、そして各地の視察の様子を知ることができる。そのなかから、いくつかテーマを設け、そのなかから学生が選び調査を行って課題報告する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
28	明治20年代の日本社会と地域の様子（２）課題発表	フォンモールが日本滞在中に体験した日本の行事や文化、そして各地の視察の様子を知ることができる。そのなかから、いくつかテーマを設け、そのなかから学生が選び調査を行って課題報告する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
29	明治20年代の日本社会と地域の様子（３）課題発表	フォンモールが日本滞在中に体験した日本の行事や文化、そして各地の視察の様子を知ることができる。そのなかから、いくつかテーマを設け、そのなかから学生が選び調査を行って課題報告する。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
30	後期まとめ	明治時代の福島県の様子から、現在の「福島県」について考える。	予習：授業配布時のプリント及び史料をあらかじめ読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

令和7年度

授業名	考古学特論	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎會田　容弘		
開講期			
授業の概要	史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実際を学ぶ。考古資料の基本的な操作方法を理解することが目標である。会津若松市笹山原遺跡１６の発掘調査実習を通して発掘方法を理解する。次に出土資料の資料化の過程を理解する。課題に対するレポートはデータおよび版下図として提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2104		
授業の到達目標	＜到達目標＞発掘調査で出土した資料を考古学研究の資料として利用できるまで整理できる能力を身に着けるレベルまで到達すること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	考古学の基本理解があること	**成績の 評価方法・基準**	レポートと授業への主体的参加度を評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とする。考古学論文を作成する学生は80%以上の理解を求める。
テキスト	『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第４～21集　地域創成学科報告集第1～５集		
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。この授業は実習作業が中心になる。資料を配布するので事前にそれを読み、確認しておくことが予習である。授業後、授業内容をノートに作成し復習すること。特に実測図の作成は授業時間で完成できない場合はあき時間に完成させること。		
位置付け・水準	文化財調査の専門職を目指す場合、必要な知識と経験が得られます。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題		
オフィスタイム	水曜日が授業が少ないので考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	発掘調査・整理作業などの実習を含む授業である。自主的な参加が必要である。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	笹山原遺跡１６の調査経過	会津若松市笹山原遺跡１６のこれまでの発掘調査の経過を説明する。	過去の発掘調査の理解。	60
2	笹山原遺跡１６の調査方法	笹山原遺跡１６の発掘調査方法について説明を行い、実際に調査を行う準備を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
3	笹山原遺跡群の研究成果	これまでの笹山原遺跡群の調査成果をまとめ、その意義と今後の課題について検討する。	過去の発掘調査の理解。	60
4	発掘調査実習（１）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
5	発掘調査実習（２）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
6	発掘調査実習（３）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
7	発掘調査実習（４）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
8	発掘調査実習（５）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
9	発掘調査実習（６）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
10	発掘調査実習（７）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
11	発掘調査実習（８）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
12	発掘調査実習（９）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	発掘調査実習（１０）	笹山原遺跡N0.1６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
14	発掘調査実習（１１）	笹山原遺跡N0.1６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
15	発掘調査実習（１２）	笹山原遺跡N0.1６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録を野帳に記録し、その日に行った作業内容と写真をホームページにアップする。	30
16	石器実測の方法	石の割れの原理を説明し、石器の実測方法について説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
17	石器実測（1）	実験で製作した剥片の実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
18	石器実測（2）	笹山原No.16遺跡から出土した後期旧石器を資料として実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
19	石器実測（3）	笹山原No.16遺跡から出土した石核を用いて実測を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
20	石器実測（4）	笹山原No.16遺跡から出土した石器を用いて、実測を行う。	完成した石器実測図をレポートとして提出する。	60
21	接合資料の理解	笹山原No16遺跡から出土した石器の中に、接合資料が含まれている。この接合資料を用いて、笹山原No.16遺跡で行われた、石器製作技術理解の方法を述べる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
22	石器属性分析の方法	石器を記述するために属性を抽出し、記述する。その方法を学ぶ。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
23	石器属性計測実習	石器の属性を実際に計測し、抽出する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
24	石器属性分析の実際	抽出した属性をEXCELに入力し、属性分析を行う。	授業で行った属性分析結果をExcelに入力し、グラフに出力し、提出する。	60
25	石器写真撮影	笹山原No.16遺跡出土の石器の写真撮影実習。	授業で撮影した写真をフォトショップとイラストレーターを用いてレイアウトし、データを提出する。	60
26	報告書製作１	実測図のトレース、分布図の作成、属性表、調査内容の記述などの説明を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
27	報告書製作２	実測した石器のトレースを行い、版下のレイアウトを行う。	トレースした図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
28	報告書製作３	分布図を作成し、石器の出土位置を合成する。母岩別分布図を作成する。それらをトレースし、版下を作成する。	遺構図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
29	報告書製作４	遺構実測図の合成し、トレースを行い、遺構図面の版下を作成する。	分布図をレイアウトし、版下を作成し、提出する。	60
30	報告書製作５	報告書の体裁及び章立てなどの説明を行い、文章を実際に書いてみる。	遺物、分布、遺構の記述を行い、レポートとして提出する。	60

令和7年度

授業名	日本の考古学	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎會田　容弘		
開講期			
授業の概要	東北大学では中沢目貝塚の発掘と報告、奥松島縄文村歴史資料館では里浜貝塚の発掘調査と報告書作成をおこなってきた。その経験と研究成果を用いて、先史時代における考古資料を用いた人間の動作連鎖の復元研究の方法を提示する。具体的な研究例として宮城県東松島市里浜貝塚の調査成果を用いる。里浜貝塚からは石、粘土、鹿角などの様々な素材を用いた物質資料が出土している。資料の観察だけでなく、製作実験を行うことで、資料の技術的理解を深めることができる。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2105		
授業の到達目標	＜到達目標＞貝塚出土資料分析の過程を理解し、実践的な調査を行うに十分な知識をもつレベルに到達すること。単位認定の基準は授業内容を7割以上理解していることが望まれる。		
履修条件	考古学の基本理解があること	**成績の 評価方法・基準**	レポートと授業への主体的参加度合を加味して評価する。100点を満点とし、60点以上で合格とするがが、考古学で論文を作成する学生には80％以上の授業理解を求める。
テキスト	授業中に紹介する		
参考書	里浜貝塚Ⅰ～Ⅸ　東北歴史博物館　里浜貝塚－平成９～１２年度発掘調査概報－『松島湾の縄文カレンダー　里浜貝塚』「展望　考古学動作連鎖研究の社会的効用－遺跡博物館での活用法－」『考古学研究』第64巻第4号pp.31-35(2018.3)「縄文土器の動作連鎖―笹山原遺跡No.16の資料分析を通して―」『福島考古』第59号pp.1-14（柿沼梨沙と共著）（2017.11.20）		
学生への要望	参考書を読み、予習・復習を行い授業に参加すること。ノートをまとめておくこと。授業で用いたパワーポイントは「めばえ」で公開するので、復習に用いること。		
位置付け・水準	文化財調査員を目指す学生には必修の知識である。専門職を目指すのであれば、より深い理解を求める。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：専門的知識・研究能力		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	講義形式ではあるが、実際の遺跡調査の実例を取り上げる。受講学生とは対話型で授業を進めるので、考えながら参加してほしい。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	里浜貝塚の位置と環境	里浜貝塚の位置と環境、周辺遺跡について。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
2	里浜貝塚研究史	里浜貝塚の研究の歴史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
3	里浜貝塚の発掘（1）	里浜貝塚里・西畑・寺下囲地点の調査結果	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
4	里浜貝塚の発掘（2）	里浜貝塚台囲地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
5	里浜貝塚の発掘（3）	里浜貝塚畑中・梨木地点の発掘調査。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
6	里浜環境史	泥炭層の植物遺体、花粉化石の分析による周辺環境の変遷史。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
7	縄文時代の前期・中期の里浜	縄文時代の前期・中期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
8	縄文時代後期の里浜	縄文時代後期の里浜の集落、墓城、貝塚のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
9	縄文時代晩期、弥生時代の里浜貝塚	縄文時代晩期、弥生時代初等の集落、墓城、貝塚、製塩炉、浜辺の利用のありかた。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
10	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(1)	漁労活動。猟具と対象魚。採集対象魚。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
11	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(2)	狩猟対象鳥獣と狩猟具。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(3)	採集対象植物と植物加工具	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
13	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(4)	漁労具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
14	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(5)	狩猟具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
15	縄文時代中期から晩期の里浜人の生業(6)	植物加工具の素材調達と製作技術	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
16	里浜貝塚の発掘（1）	里浜貝塚の平成８年度の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
17	里浜貝塚の発掘（2）	里浜貝塚平成９年の発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
18	里浜貝塚の発掘(3)	里浜貝塚の平成１０年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
19	里浜貝塚の発掘（4）	里浜貝塚の平成１１年発掘調査の成果と課題。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
20	里浜人の土器作り（１）	里浜貝塚出土の土器を観察し、その作り方、文様施文方法などを動作連鎖に基づいた仮説を作る。	仮説をレポートにして提出する。	60
21	里浜人の土器作り（２）	仮説に基づいた土器製作実験計画を立てる。	仮説を発表し、議論する。	60
22	里浜人の土器作り（３）	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
23	里浜人の土器作り（４）	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
24	里浜人の土器作り（５）	実験的に土器を製作する。	土器製作実験を行う。	60
25	里浜人の石器作り（１）	石器石材の検討を行う。	縄文人の石器石材について笹山山原遺跡と比較してみる。	60
26	里浜人の石器作り（２）	石の割れの基本的理解。実験的に製作した石器を観察し、割れ面の理解を深める。	実験製作品を観察し、記述する。	60
27	里浜人の石器作り（３）	石器製作における加撃法、加撃具と残された痕跡の比較を行う。	加撃法・加撃具の明らかな実験石器と里浜貝塚出土遺物との比較を行い、レポートにする。	60
28	里浜人の石器作り（４）	縄文晩期前半の里浜集落の遺跡構成と生業と遺物（２）	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。発表させる場合がある。	60
29	里浜人の石器作り（５）	実際に実験的に石器を製作してみる。	自分で作った石器について、記述してみる。	60
30	里浜人のモノつくりのまとめ	モノつくりの理解と動作連鎖の考え方を説明する。	実験研究をまとめ、何が理解できたかをまとめて提出する。	60

令和7年度

授業名	中国の歴史と文化	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎渡部　東一郎		
開講期			
授業の概要	中国古代から近・現代に至る、様々な思想やその歴史的展開を学ぶことを通して、日本はもちろん、東アジア諸国の文化や社会の形成に多大な影響を及ぼしてきた中国文化について理解を深めるとともに、自ら思考する力、複眼的なものの見方を身に付ける。 なお、提出してもらったレポートはコメントを付して後日返却する。		
授業の到達目標	①中国における様々な思想やその歴史的展開について知見を深める。 ②自ら思考すること、複眼的なものの見方ができる。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。		
履修条件	専攻科 文化学専攻 1 年	**成績の 評価方法・基準**	①前期・後期のレポート：各40点 ②出席・受講態度：20点
テキスト	湯浅邦弘 編著『概説 中国思想史』(ミネルヴァ書房 3,300円)		
参考書	必要に応じて授業内で指示する。		
学生への要望	「学んだ上で自ら考える」積極的な姿で受講してほしい。		
位置付け・水準	CS2106		
ディプロマポリシーとの関係	1), 2)		
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目標と流れについて説明する。	授業の目標と流れについて確認する。	30
2	第1章　春秋戦国時代・秦代	1．諸子百家の時代　2．儒家と墨家：「顕学」の思想集団	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
3	第1章　春秋戦国時代・秦代	2．儒家と墨家：「顕学」の思想集団(続き)	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
4	第1章　春秋戦国時代・秦代	3．道家：文明批判と本源の追求	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
5	第1章　春秋戦国時代・秦代	4．思想家群像：陰陽家・名家・法家	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
6	第1章　春秋戦国時代・秦代	5．法家と秦帝国：法治体制の提唱	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
7	第2章　前漢	1．草創期の模索	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
8	第2章　前漢	2．儒教国教化	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
9	第2章　前漢	3．儒教統制下の諸問題	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
10	第3章　後漢	1．後漢の復興と儒教　2．経学の総合化	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
11	第3章　後漢	3．批判精神の系譜　4．後漢の衰退と諸思想	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
12	第4章　魏晋南北朝・隋唐	1．「貴無」、「崇有」：魏晋時代の思想	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
13	第4章　魏晋南北朝・隋唐	2．「玄儒文史」と仏教・道教：東晋・南北朝時代の思想	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
14	第4章　魏晋南北朝・隋唐	3．儒仏道三教の鼎立：隋唐時代の思想	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	第4章　魏晋南北朝・隋唐	4．魏晋南北朝・隋唐時代の科学技術と思想	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
16	第5章　宋代	1．近世の始まり　2．儒教の復興	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
17	第5章　宋代	3．儒教の発展　4．仏教と道教の展開：禅宗、玉皇大帝、『悟真篇』	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
18	第5章　宋代	5．朱子学の成立：朱熹	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
19	第5章　宋代	6．南宋儒教の展開：思想家列伝	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
20	第6章　元代	1．元朝という多民族国家　2．許衡による朱子学の復興	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
21	第6章　元代	3．呉澄による朱子学と陸学の折衷　4．許衡と呉澄に対する後世の評価	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
22	第7章　明代	1．明初の経学と性理学：朱子学の官学化	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
23	第7章　明代	2．陽明学の成立：「良知心学」の世界	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
24	第7章　明代	3．陽明学派の思想家たち：講学活動の隆盛	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
25	第7章　明代	4．「三教一致」と明末の諸思想	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
26	第8章　清代	1．清初の社会と思想　2．考証学の世界	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
27	第8章　清代	3．漢宋の対立から調和へ　4．清末の思想：「漢学」から「国学」へ	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
28	第9章　近現代	1．西洋の衝撃　2．儒教の再解釈と進化	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
29	第9章　近現代	3．東アジアにおける「知」の連鎖　4．共和国の希求	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60
30	第9章　近現代	5．新文化運動とマルクス主義の受容	予習では教科書の授業で学ぶ範囲について一通りに目を通し、復習ではノートを参照しながら教科書を読み直すこと。	60

令和7年度

授業名	西洋美学史	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員名	◎斎藤　美保子		
開講期	Ⅲ・Ⅳ		
授業の概要	小田部胤久著『西洋美学史』を輪読し、古代ギリシアから19世紀末までの西洋の美学を学習する。折々に、学生の学位授与機構提出レポートのテーマに関連づけて、美について議論する。 少人数教育であり、授業内およびオフィスタイムに試験やレポートに対する評価を伝達する。		
授業の到達目標	①西洋美学の大きな流れを歴史的に理解する。 ②西洋美学の概念、用語、及び、美学者について基礎的な知識を定着させる。 ③美学的な視点で歴史を考える。 単位認定の最低基準は、授業内で学んだ基本的な美学史の用語を正しく理解し、使いこなせること。 DPとの関係：研究能力を身につける、研究課題を適切に設定する知識を身につける		
履修条件	専攻科２年生	**成績の 評価方法・基準**	授業中の輪読と質疑応答（30点）、レポート「各自の美学的問題」（30点）、論述式の期末試験（40点）。 60点以上が合格だが、目標は80点以上。
テキスト	小田部胤久著『西洋美学史』東京大学出版会		
参考書	掛下栄一郎著『美学要説』（研究室蔵） その他、授業内で指示する		
学生への要望	精読する力を付け積極的に議論すると共に、論理的な文章をまとめるように心がけること。		
位置付け・水準	専門的科目　西洋史に関する科目　CS2203		
ディプロマポリシーとの関係	専門知識　研究能力		
オフィスタイム	火曜日16：10-17：05　金曜日10：30-11：30		
アクティブラーニング実施内容	少人数でのテキストの輪読とディスカッションを繰り返す。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	教師と学生の自己紹介。授業の進め方を説明する。	教科書を読み始める。	90
2	学生の学問的関心に関連する美学	学生個々の学問的興味関心と美学を結びつけ、参考文献をリストアップする。	図書館等で参考文献を手に取ってみる。	90
3	ギリシア美術	古代ギリシアから西洋美学史を始める導入として、古代ギリシア美術を概説する。	短大の「美術史」および専攻科の「フランスの歴史と文化」について、ノート等で復習しておく。	90
4	プラトン①	第１章「知識と芸術」を読み、プラトンの美学を理解する。	第1章を繰り返し読み、充分に理解する。	90
5	プラトン②	プラトンのイデア論について考察する。	プラトンのイデア論について、自分なりの考えをまとめる。	90
6	アリストテレス①	第２章「芸術と心理」を読み、アリストテレスの美学を理解する。	第2章を繰り返し読み、充分に理解する。	90
7	アリストテレス②	アリストテレスのカタルシスについて考察する。	アリストテレスのカタルシスについて、自分なりの考えをまとめる。	90
8	プロティヌス ①	第３章「内的形相」をみ、プロティヌスの美学を理解する。	第3章を繰り返し読み、充分に理解する。	90
9	プロティヌス②	プロティヌスの新プラトン主義について考察する。	プロティヌスの新プラトン主義について、自分なりの考えをまとめる。	90
10	アウグスティヌス①	第４章「期待と記憶」を読んで、アウグスティヌスの美学を理解する。	第4章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
11	アウグスティヌス②	自由七芸と聖歌の効用を考察する。	CDでグレゴリウス聖歌を聞いてみる。	90
12	トマス・アクィナス①	第５章「制作と創造」を読んで、トマス・アクィナスの美学を理解する。	第5章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
13	トマス・アクィナス②	ステンド・グラスの効用について考察する。	市内の教会でステンドグラスを拝見する。	120
14	ルネサンス①	『美学要説』第7章「ルネッサンス・レオナルド・ダ・ヴィンチ」を読み、初期ルネサンスの美学を理解する。	第7章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
15	ルネサンス②	『美学要説』第7章「ルネッサンス・レオナルド・ダ・ヴィンチ」を読み、盛期ルネサンスの美学を理解する。	第7章を繰り返し読み、充分に理解する。	90
16	ルネサンス③	遠近法（一点透視）とスフマートで表現した<最後の晩餐>の美学を検討する。	自分なりに模写を作り、その構成美を体得する。	90
17	各自の学位授与機構申請レポートのテーマと美学①	各自のテーマと同時代の西洋美学の概要を理解する。	各自のテーマの時代背景と比較する。	90
18	各自の学位授与機構申請レポートのテーマと美学②	各自のテーマと同時代の西洋美学の概要を理解する。	各自のテーマの時代背景と比較する。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	各自の学位授与機構申請レポートのテーマと美学③	各自のテーマと同時代の西洋美学の概要を理解する。	各自のテーマの時代背景と比較する。	90
20	１7世紀①	第６章「含蓄のある表象」を読み、バウムガルテンによる美学の定義、ライプニッツの美学を理解する。	第6章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
21	１7世紀②	第７章「方法と機知」を読み、ヴィーコの美学とバロックについて理解する。	美術書でバロック絵画を、CDでバロック音楽を味わう。	90
22	18世紀①	第８章「模倣と創造性」を読み、ヤングの美学、特に自然観を理解する。	第8章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
23	18世紀②	第９章「趣味の基準」を読み、ヤングの美学とロココ様式の関係を理解する。	第9章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
24	18世紀③	第10章「詩画比較論」を読み、レッシング（1729～1781）の美学を理解する。	第10章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
25	18世紀④	第11章「自然と芸術Ｉ」を読み、カント（1724～1804）の美学を理解する。	第11章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
26	18世紀⑤	第12章「遊戯と芸術」を読み、シラー（1759～1805）の古典主義の美学を理解する。	第12章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
27	19世紀①	第13章「批評と作者」を読み、シュレーゲルの初期ロマン主義美学を理解する。	第13章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
28	19世紀②	第14章「自然と芸術Ⅱ」を読み、シェリング（1775～1854）の観念論を理解する。	第14章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
29	19世紀③	第15章「芸術の終焉Ｉ」を読み、ロマン主義の頂点を考察する。	第15章を繰り返し読んで、充分に理解する。	90
30	まとめ	古代ギリシアから19世紀までの西洋の美学史を振り返り、一年間のまとめをする。 期末試験期間中に行う、論述式の試験について説明する。	ノートを整理し一年間のまとめをして、試験の準備をする。	180

令和7年度

授業名	ドイツの歴史と文化	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎桑野　聡		
開講期	通年		
授業の概要	ドイツをテーマに、ヨーロッパ地域の生活・文化の特色を歴史学的に考察する。短期大学時代の西洋史概説の知識を踏まえて大学３・４年生らしいゼミ形式での授業方法を取ることで、学生各自の歴史学的基礎力の強化を目指したい。 　今年は中世後期~近世（16世紀頃）のヨーロッパ美術の動向をドイツを代表する画家アルブレヒト・デューラーを通して概観する。参加学生の研究テーマとの接点を探りながら基本テキストを講読し、後期には発表と討論を実施する。 学生は課題を発表し、議論することで、各自の理解をフィードバックする。　　CS2107		
授業の到達目標	テキストを読み解く思考力と討論する力を身につける。担当課題をきちんと行い、質疑応答が出来ることを最低基準とする。 □ディプロマ・ポリシーとの関係：　専門知識・研究能力		
履修条件	専攻科文化学専攻　学生	**成績の 評価方法・基準**	夏休みの課題提出（50%）・後期の発表と討論(50%)
テキスト	フランツ・ヴィンツィンガー／前川誠郎　監修・永井繁樹　訳『デューラー』グラフ社　1985年（原著1971年）		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	きちんとテキストを読み込み、授業時の議論に積極的に参加する姿勢を求めます。		
位置付け・水準	CS2107		
ディプロマポリシーとの関係	専門知識・研究能力		
オフィスタイム	火曜Ⅰ限（8:50～10:20）・金曜Ⅴ限目（16:10～17:40）　考古学研究室		
アクティブラーニング実施内容	学生は課題を発表し、議論することで、各自の理解をフィードバックする。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の計画を確認し、各自の課題を確認する。	配布資料を通読して、次回授業に備える。	60
2	ウォーミングアップ①	中世～近世のドイツ社会と美術の動向を概観し、基礎知識を確認する。	短大の「ヨーロッパ文化史」の講義内容を確認する。	120
3	ウォーミングアップ②	北方ルネサンスの特徴を確認する。	図書館を利用して、ルネサンス期の画家の作品を確認する。	120
4	ウォーミングアップ③	都市ニュルンベルクについて解説する。	提示された参考文献を確認する。	120
5	講読①	デューラー評価の概要と代表作品の確認	図書館を利用して作品を確認する。	120
6	講読②	デューラーの生涯を概観する。	「ヨーロッパ文化史」の講義内容を確認する。	120
7	講読③	デューラーの妻について解説する。	中世ヨーロッパの女性像について参考文献を読む。	120
8	講読④	第一次イタリア旅行について解説する。	イタリア・ルネサンスを確認し、当時のイタリア美術界の状況を理解する。	120
9	講読⑤	木版画「ヨハネの黙示録」について解説する。	当時の終末思想について、参考文献を読む。	120
10	講読⑥	二つの「自画像」について解説する。	宗教改革期直前のキリスト像について、授業内容に従って確認する。	120
11	講読⑦	同時代を生きる友人ピルクハイマーについて解説する。	作品の鑑賞、比較を主体的に行い、議論する姿勢を大切にする。	120
12	講読⑧	デューラーのデッサン力と人体比例の研究について解説する。	ダ・ヴィンチなどの作品と比較検討する姿勢を大切にする。	120
13	講読⑨	16世紀初旬の作品について解説する。	作品を確認し、描き方や意図などを授業を参考に主体的に考えてみる。	120
14	講読⑩	第二次イタリア旅行について解説する。	当時のヴェネチアについて、考えてみる。	120
15	前期まとめ	半期の授業内容を踏まえて、イタリアとデューラーの関係について議論する。	他者の意見を拝聴し、意見を重ねていく工程に注意しよう。	120
16	後期ガイダンス	後期の授業の進め方を確認する。	配布資料を通読して、次回授業に備える。	60
17	講読❶	「ローゼンクランツ祝祭図」について解説する。	イタリア的と評価される作品の中のドイツ的特徴とは何かを考える。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	講読❷	「アダムとイヴ」について解説する。	歴史上の「アダムとイヴ」の描かれ方の変遷を確認しよう。	120
19	講読❸	「ヘラー祭壇画」について解説する。	ラファエロの作品との比較を考えてみよう。	120
20	講読❹	「万聖図」について解説する。	類似の祭壇画の系譜との関係を考える。	120
21	講読❺	デューラーの木版画について解説する。	当時の出版事情について確認しよう。	120
22	講読❻	デューラーの銅版画について解説する。	当時のエッチング技術の進歩について確認しよう。	120
23	講読❼	皇帝マクシミリアンとの関係を解説する①	当時のマクシミリアンの帝国政策を確認する。	120
24	講読❽	皇帝マクシミリアンとの関係を解説する②	同上	120
25	講読❾	ネーデルラント旅行について解説する①	当時のネーデルラント地方の経済的繁栄と美術上の評価を確認する。	120
26	講読❿	ネーデルラント旅行について解説する②	同上	120
27	講読⓫	「四人の使徒」について解説する①	宗教改革期におけるこの作品の意味を考える。	120
28	講読⓬	「四人の使徒」について解説する②	同上	60
29	講読⓭	晩年について解説する。	デューラーの墓について授業内容に従って確認する。	60
30	まとめ	一年の講義を振り返りる。	第2回発表に繋がる研究テーマの検討を行う。	60

令和7年度

授業名	フランスの歴史と文化	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎斎藤　美保子		
開講期	Ⅰ・Ⅱ期		
授業の概要	【万国博覧会に見る19・20世紀のフランスの歴史と文化】 ①資料の輪読と画像での美術鑑賞を通し、19世紀後半から20世紀に至るフランスの歴史と文化を理解する。 ②夏休みの課題レポートを後期に順次口頭発表する。美術館見学等の報告もその都度、ディスカッションしながら評価を伝える。		
授業の到達目標	①フランスの近代美術および基礎的な文学作品を、理解し鑑賞できる。 ②フランス美術史の大まかな流れが理解できる。 ③フランスと日本の関係を、文献等を使って調べることができる。 単位認定の最低基準：授業内で扱ったフランスの作品について、歴史的に説明できること。		
履修条件	専攻科１年生 生涯学習講座受講生	**成績の 評価方法・基準**	授業中の輪読と質疑応答（30点）、夏休みのレポートと発表（20点）、論述式の学年末試験（50点） 60点以上で合格だが、80点以上を目標とする
テキスト	授業内で印刷物を配布する。		
参考書	髙階秀爾監修『カラー版西洋美術史』美術出版社、サミュエル・ビング編『芸術の日本』、海野弘他著『レンズが捉えた19世紀ヨーロッパ』山川出版社、渋沢栄一著『雨夜譚』岩波文庫。A.Quantin; L'Exposition du Siecle, Paris, 1900.		
学生への要望	輪読で読解力をつけること。 広くフランスの歴史と文化、美術に関心を持つこと。 論理的な議論とレポートの作成を心がけること。 週末や長期休暇に時間を見つけて、近隣の美術館の展示を見学すること。		
位置付け・水準	専門的科目　西洋史に関する科目　CS2108		
ディプロマポリシーとの関係	専門知識、研究能力		
オフィスタイム	火曜日16：10－17：05　金曜日10：40－11：40		
アクティブラーニング実施内容	社会人を含む10名程度で、毎回、輪読とディスカッションを繰り返す。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション　4.8	教師と学生の自己紹介をする。万国博覧会の概要を理解する。	配布資料を使って、図書館等で参考文献を調べる。	90
2	ロンドン万博　1851年	ロンドンで最初に開かれた万国博覧会は、産業革命の成果を世界中に知らせる効果があったことを理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
3	パリ万博　1855年	パリで最初の万国博覧会は芸術の都を喧伝する効果があったことを理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
4	パリ万博　1855年　つづき	同展で大規模な回顧展が開催されたアングルとドラクロワ、そして新たな写実主義の画家たちの活躍を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
5	パリ万博　1867年	植民地競争の最中にあった、1867年のパリ万博を概観する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
6	パリ万博　1867年　つづき	徳川昭武の随員として渡仏した渋沢栄一の洋行記を読む。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
7	ウィーン万博　1873年	明治政府として公式参加したウィーン万博を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
8	ウィーン万博　1873年　つづき	ウィーン万博からの帰途、海難事故で貴重な美術品を失って以降、東京国立博物館建設に至る経緯を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
9	パリ万博　1878年	1878年のパリ万博を概観する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
10	パリ万博　1878年　つづき	印象派を中心とするジャポニスムを理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
11	パリ万博　1889年	エッフェル塔から東京タワーへの、建築史的、美術史的、都市開発的価値を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
12	パリ万博　1889年　つづき	ドラクロワの歴史画からギリシアの独立戦争を読み解く。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
13	パリ万博　1900年	アールヌーヴォーの勝利と言われた1900年パリ万博の展示品を検討する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
14	パリ万博　1990年　つづき	夏目漱石、浅井忠の洋行記を読み、日本人の目に映ったフランスの文化、美術を検討する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
15	夏休みの課題指示	ここまでの授業の復習と質問への回答をして、夏休み中のレポート（フランスの歴史と文化に関する文献の書評）を指示する。	フランスの歴史と文化に関する文献を何冊か貸し出すので、選んだ一冊を読み込み、書評する。	600

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	夏休みの課題提出	各自のレポートを確認し、発表の順番を決める。夏休みの美術館訪問を報告する。	書評発表に向け、パワー・ポイント等の資料を作成する。	180
17	口頭発表1	15分ずつ発表し、質疑応答。	読み上げ原稿作成。	180
18	口頭発表2	15分ずつ発表し、質疑応答。	課題設定、調査、論考、パワー・ポイントの発表資料作成	90
19	口頭発表3	15分ずつ発表し、質疑応答。	仲間の発表に質問し、理解する。	90
20	口頭発表4	15分ずつ発表し、質疑応答。	更に興味を惹いた本を読む。	90
21	フランス美術鑑賞	講堂に展示されているブールデル作《頭髪のベートーヴェン》をはじめ、学内外で、フランス美術を鑑賞する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
22	エコール・ド・パリ	19世紀末から20世紀初頭にかけてのモンマルトル、モンパルナスでの、多国籍の詩人や美術家の活動を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
23	エコール・ド・パリ　つづき	エコール・ド・パリの女流画家、マリー・ローランサンの絵画を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	300
24	パリ装飾美術博覧会　1925年	パリ芸術工芸博覧会で脚光を浴びた、アール・デコ様式を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
25	パリ装飾美術博覧会　1925年つづき	アール・デコ様式の、日本における展開を理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
26	第二次世界大戦前後	諸橋近代美術館の所蔵作品を中心に、第二次世界大戦前後の動きを理解する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	180
27	日本でのフランス美術ブーム	山梨県立美術館に始まる、公立美術館ブームを検討する。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
28	大阪万博　1970年	1970年の大阪万博を体験した世代として話をする。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
29	大阪万博　2025年	2025年の大阪万博を目撃した体験を語り合う。	配布資料を読み返し、各自で更に調べる。	90
30	総まとめと試験の指示	一年間の授業の総まとめをし、発表および提出物の講評をする。 記述式の試験の指示をする。	一年間を振り返り、心ゆくまで復習し、試験に備える。	300

令和7年度

授業名	日本女性史	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 4単位 選択
担当教員名	◎知野　愛		
開講期	通年		
授業の概要	日本の近現代女性史において、様々な分野で道を切り拓いた女性達の活躍が見られるが、その生涯や果たした役割、社会的背景等を考察する。具体的には、明治初年から昭和30年代頃における教育・労働・福祉・医療・看護等の諸分野の女性先駆者達の生涯や功績、歴史的位置づけを考察する。最終授業で課題全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	授業目標は、様々な女性先駆者達の足跡をたどることで現在私達が置かれている状況や位置づけを考え、課題達成のための方策などについて示唆を得ることを目標とする。達成目標は、各自が1つテーマを決めて資料調査し、独自の視点でレポートにまとめ提出し発表することである。単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。		
履修条件	文化学科専攻科文化学専攻１年生	**成績の 評価方法・基準**	レポート(通年4回)20点×4＝80点、授業提出物20点
テキスト	資料を配布する		
参考書	『日本近現代女性史』阿部恒久・佐藤能丸著、芙蓉書房出版2002他		
学生への要望	授業で扱うテーマや人物について関連書籍を読み疑問点を調べ積極的に学びを深めようとする姿勢を高く評価します。		
位置付け・水準	位置づけ・水準:CS2110		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係:専門的知識、研究能力		
オフィスタイム	(Ⅰ期)火曜Ⅱ、Ⅳ限　(Ⅱ期)月曜Ⅱ限、Ⅲ限　地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)		
アクティブラーニング実施内容	レポート作成と発表(第8回.9回 第14回.15回　第21回.22回　第28回.29回.30回)。レポートのテーマは授業内容の中から各自が選定する。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要の説明	シラバスに基づいて授業の概要、目標、成績評価の付け方等を説明する。明治時代の女性達に関する映像を見る。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
2	明治維新前後の女性・義務教育の発足(1)	明治維新前後の女性史を概観する。「学制」の発布と、女子の就学率等の状況を理解する。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
3	明治維新前後の女性・義務教育の発足(2)	明治期の女子教育の歴史を概観し、裁縫の義務化、子守学級の特設、高等女学校令の制定、それに続く私立女学校の設立状況を学ぶ。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
4	明治期の教育と女性(1)	津田梅子の生涯に焦点をあて、明治初期の女子教育、帰国後の足跡、女子教育史上果たした役割等を学ぶ。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
5	明治期の教育と女性(2)	山川捨松の生涯に焦点をあて、明治初期の女子教育、帰国後の足跡、女子教育史上果たした役割等を学ぶ。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
6	明治期の教育と女性(3)	明治期に渡米し結婚し、後にベストセラー作家となった女性、杉本鉞子の生涯に焦点をあて、当時の結婚観、国際交流等について学ぶ。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
7	レポート作成説明	年4回のレポート作成の初回につき、説明をした後、各自で作成する。パソコン持参。(演習)	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
8	レポート発表、質疑応答(1)	各自が提出したレポートについて発表し、質疑応答をする(第1グループ)。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
9	レポート発表、質疑応答(2)	各自が提出したレポートについて発表し、質疑応答をする(第2グループ)。レポートにコメントをつけてフィードバックする。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
10	医療の分野で活躍した女性たち(1)	女医第一号とされる荻野吟子の生涯を辿り、その他にも医療分野で活躍した女性達の生涯を辿り、社会的背景を考える。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
11	医療の分野で活躍した女性たち(2)	女性医師の輩出に尽力した女性たちの生涯を辿り、社会背景を考える。吉岡弥生の教育思想・生涯に注目する。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
12	福島県ゆかりの医療看護分野の先駆者達	福島県内出身の医療看護分野で活躍した女性達の足跡をたどり、社会的背景を考える。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
13	医療と看護の分野で活躍した女性達	ここまでのまとめ、女性先駆者たちの流れを振返る。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	レポート作成	指定のテーマについてレポートを作成し締切日までに提出する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
15	レポート発表・質疑応答	各自が提出したレポートについて発表し、質疑応答をする。提出したレポートに対しコメントをつけフィードバックする。	復習：レポート作成、発表後に生じた疑問点などを調査検索する。予習:次回のテーマについて検索するなど事前調査する。	60
16	婦人束髪会の設立	婦人束髪会設立とその背景、設立者達の意図と束髪の変遷、女性たちの受容課程等を調べ、レポートを作成し提出、全員が発表する。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
17	『青鞜』の創刊	『青鞜』創刊の背景、母性保護論争について、与謝野晶子、平塚らいてうがどのような論争を繰り広げたのかを資料から考察する。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
18	文化生活の到来	『文化生活研究』の創刊、米騒動、地域婦人会と生活改善、婦選運動などに着目し、文化生活とはどのようなものであったのかを考える。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
19	大正期の女性の生活	教育の普及、職業婦人の増加、その様々な職業の成り立ちと当時の社会状況などについて学び、大正期の女性の生活と文化を考える。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
20	文化生活と生活の合理化	文化住宅の出現、安部磯雄の台所観など、簡素化・倹約化を基本とした生活改善について調べ、生活の合理化としてどのような側面から推進されたのか考える。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
21	レポート作成、説明(演習)	各自が指定のテーマについてレポートを作成する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
22	レポート発表、質疑応答	レポートを発表し、質疑応答する。提出したレポートに対しコメントをつけフィードバックする。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
23	女子教育に尽くした人々(1)	女子教育の草創期に尽力した人々の生涯を辿る。安井てつの生涯を取り上げ、果たした役割・意義について考え、女子教育の時代的な流れをとらえる。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
24	女子教育に尽くした人々(2)	女子教育の草創期に尽力した人々の生涯を辿る。河井道の生涯を取り上げ、果たした役割・意義について考え、女子教育の時代的な流れをとらえる。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
25	社会福祉事業と女性(1)	社会福祉事業に尽くした数名の女性達の生涯を資料から学び、社会的背景を考察する。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
26	社会福祉事業と女性(2)	日本の保育事業の創始に関わった人々の生涯を考察する。日本初の保育所創設者の歩み、保育所事業の展開について資料から学び意義を考える。	復習：疑問点があれば調べる。課題が出た場合は次回提出。予習：次回テーマに関する文献を読むなどして各自予習する。	60
27	各分野の女性先駆者達	女性先駆者達の生涯や足跡、功績、果たした役割、社会的背景等を振返る。(最終レポート)指定のテーマでレポートを作成し指定日に提出・発表する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
28	レポート作成	指定のテーマについてレポートを作成し締切日までに提出・発表する。(演習)	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
29	レポート発表・質疑応答	各自が提出したレポートについて発表し、質疑応答、ディスカッションする(第1グループ)。	復習：レポート作成、発表後に生じた疑問点などがあれば調査する。関連書籍を読む。	60
30	レポート発表・質疑応答	各自が提出したレポートについて発表し、質疑応答をする(第2グループ)。レポートにコメントをつけフィードバックする。	復習：レポート作成、発表後に生じた疑問点などがあれば調査する。関連書籍を読む。	60

令和7年度

授業名	文化施設論	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択
担当教員名	◎仲田　佐和子		
開講期	通年		
授業の概要	社会の成熟化・多様化に伴い、今日の文化施設はさらなる充実を要請されるようになってきた。その一方では、財源不足に直面して疲弊しつつもある。 文化施設の現状と課題を紹介しながら、文化施設の新たな方向性を分析、検討する。 位置付け・水準CS2111		
授業の到達目標	社会状況とそこで求められる文化施設の関係を理解し、今後、地域づくりと関わる場面でその知識と発想を活かせるレベルに到達すること。 ディプロマポリシーとの関係：専門的知識・研究能力		
履修条件	専攻科学生	**成績の 評価方法・基準**	中間レポートとその発表（40点）、期末レポートとその発表（60点）の合計100点を満点とし、60点以上で合格とするが、80点以上を目指してほしい。
テキスト	使用しない。資料を配布する。		
参考書	『基礎自治体の文化政策』水曜社（2020年）、『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房（2019年）		
学生への要望	社会の動きを見逃さず、身近な文化施設の変化にも関心を持ってほしい。配布資料とノートをまとめておくこと。		
位置付け・水準	CS2111		
ディプロマポリシーとの関係	専門的知識。研究能力。		
オフィスタイム	月曜日・Ⅳ時限、火曜日・Ⅱ時限。創学館4階№4研究室。		
アクティブラーニング実施内容	レポートの発表をパワーポイントを用いて行う。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の視点、目標、授業計画を説明する。	身近にある文化施設を調べておく。	60
2	文化施設の設置目的	博物館は「社会教育法」第9条にあるように「社会教育のための機関」である。博物館だけではなく、図書館、公民館など「施設」として社会教育との関係を考察する。	学芸員課程を履修した学生は「社会教育法」「博物館法」について復習しておくこと。	60
3	文化施設と地域（1）	文化施設の開設と社会の動きは密接に関係している。福島県立博物館が開館するまでの過程について概観する。	福島県立博物館ホームページ等で、開館までの経緯を調べておく。	60
4	文化施設と地域（2）	福島県立博物館開館後の利用状況の推移、利用者の期待と満足度や要望を分析、考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
5	文化施設と地域（3）	福島県立博物館の地域住民及び学校との連携、活用状況について分析、考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
6	進化する文化施設（1）	2000年に開館したアクアマリンふくしま（公益財団法人ふくしま海洋科学館）は「環境水族館宣言」のもと、海洋生物の展示にとどまらず海と里山の関係を学ぶことができる施設の増設をすすめるなど、積極的な活動を行っている。まず、開館までの経緯を概観する。	アクアマリンふくしまホームページ等で、開館までの経緯を調べておく。	60
7	進化する文化施設（2）	アクアマリンふくしまに増設された「子ども体験館アクアマリンえっぐ」について解説する。「生命の尊さを学ぶ」体験とはどういうことかを考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
8	進化する文化施設（3）	アクアマリンふくしまの「移動水族館」を例に、単に建物としての施設にとどまらない教育普及活動を考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
9	文化施設と活動団体（1）	地域の多様な文化的営みを共有し、分かち合える場としての文化施設には、文化的なつながりを求めて人々が集まってくる。そのような拠点となるために必要なことな何かを考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
10	文化施設と活動団体（2）	文化拠点を形成する主体は、公共文化施設だけではない。文化団体、NPO、まちづくり団体、図書館、公民館、自治会、商店街などの様々な場所や組織や活動であることを検証する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
11	「公共財」としての文化施設（1）	いわき芸術文化交流館アリオスを取り上げ「ハコもの」としてではない活動を解説する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
12	「公共財」としての文化施設（2）	いわき芸術文化交流館アリオスの「フリースペース」に注目し、稼働率ではなく入館率を上げることによってもたらされた効果につい検証する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
13	「公共財」としての文化施設（3）	いわき芸術文化交流館アリオスと同様に「ハコものからの脱却」を目指す、金沢市民芸術村、長野市芸術館を紹介し比較する。またそれぞれの問題点を考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
14	前期のまとめ	前期で取り上げた要点をまとめ、中間レポートの構成を整理する。	中間レポートの構想をまとめておくこと。	60
15	中間レポートの発表	パワーポイント等を用いて中間レポートの発表を行う。	パワーポイントその他、発表の準備をする。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	文化政策の変遷と自治体の役割（1）	日本の文化政策の歴史を概観し、その変遷の政治・社会的背景を考察する（①戦前から戦後まで）。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
17	文化政策の変遷と自治体の役割（2）	日本の文化政策の歴史を概観し、その変遷の政治・社会的背景を考察する（②1970年代　社会教育から自治体文化行政への転換）。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
18	文化政策の変遷と自治体の役割（3）	日本の文化政策の歴史を概観し、その変遷の政治・社会的背景を考察する（③1990年代　“文化ホール”はまちをつくってきたか）。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
19	文化政策の変遷と自治体の役割（4）	日本の文化政策の歴史を概観し、その変遷の政治・社会的背景を考察する（④2000年代　アートプロジェクトとアートNPO）。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
20	地域資源とまちづくり（1）	地域資源をどのように活かせば、まちの内外の人に広く知ってもらえるのか。また、そうした伝統や文化に多くの人に親しんでもらい、それらをまちづくりに活かすためにはどうしたらよいのかを考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
21	地域資源とまちづくり（2）	越後妻有（新潟県十日町市、津南町）のNPO法人越後妻有里山協働機構の取り組みについて解説する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
22	地域資源とまちづくり（3）	廃校、空き家、過疎集落といった負のイメージを逆転させた「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」について考察する(1)	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
23	地域資源とまちづくり（4）	廃校、空き家、過疎集落といった負のイメージを逆転させた「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」について考察する(2)	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
24	文化・芸術を活かしたまちづくり（1）	瀬戸内海直島の地中美術館について解説する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
25	文化・芸術を活かしたまちづくり（2）	瀬戸内海直島のベネッセハウスミュージアムについて解説する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
26	文化・芸術を活かしたまちづくり（3）	瀬戸内海直島、豊島、犬島を中心に開催される瀬戸内国際芸術祭と島の生活との関係について考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
27	コミュニティの活性化（1）	これからの文化・芸術を活かしたまちづくりは、行政、地域、NPO、企業、教育機関といった様々な主体がそれぞれにネットワークを築き、多種多様の活動を展開していくことが重要であることを考察する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
28	コミュニティの活性化（2）	持続可能なまちづくり活動には何が必要なのかを検証する。	関連文献および資料を紹介するのでそれを熟読し、要約しておくこと。	60
29	まとめ	授業で取り上げた要点をまとめ、期末レポートの構成を整理する。	期末レポートの構想をまとめておくこと。	60
30	期末レポートの発表	パワーポイント等を用いて期末レポートの発表を行う。	パワーポイントその他、発表の準備をする。	60

令和7年度

授業名	日本文化史演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎佐藤　愛未		
開講期			
授業の概要	近世後期～近代にかけて作成された歴史資料を読み解きながら、文書が作成された背景や意図について考察する。 またこの授業では、文書解読の技能を習得すること。そして、文書を通してその時代の用語や文章の書き方、及び史料の取扱い方を学ぶことである。 毎授業ごとに決められた課題（史料）を各自で読解の後、発表を行ってもらう。その発表内容の検討を行いながら実践的に学ぶ。 なお、毎授業ごとに課題に対するフィードバックを行います。		
授業の到達目標	歴史資料の解読技能を習得を目指し、読むだけではなく内容を理解し史料の作成背景などを考察するための多角的視覚を養うことを達成目標とします。 単位認定の最低基準は、 ①授業の内容を7割理解していること。 ②資料読解について７割を理解していること。 ③資料読解の取り扱い方について７割理解していること。		
履修条件	専攻科２年生	**成績の 評価方法・基準**	①口頭発表40点(史料の読解・解釈) ②課題60点(30点・30点の2回)
テキスト	適宜プリントを配布する。		
参考書	日本歴史学会編『演習古文書選　近世編』吉川弘文館、1971年 児玉幸多編『くずし字用例事典』東京堂出版、1993年		
学生への要望	史料読解のため必ず予習復習を行い、問題関心・探究心をもって授業に出席すること。		
位置付け・水準	CS2204		
ディプロマポリシーとの関係	研究課題、論理的・創造的		
オフィスタイム	月曜日のⅠ時間目・水曜日のⅡ時間目。創学館4階、№5研究室		
アクティブラーニング実施内容	史料読解および講読・個別発表		
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	古文書を解読するうえで必要とされる基本的知識について説明し、年間のスケジュールを提示して、史料の紹介を行う。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ガイダンスの内容及び目録作成の方法について復習する。	30
2	史料読解入門編（１）	史料読解に入る前に、例題を用いながらくずし字の読み方を紹介する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：目録作成の方法について復習する。	30
3	史料読解入門編（２）	史料読解に入る前に、例題を用いながらくずし字の読み方を紹介する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：目録作成の方法について復習する。	30
4	史料読解入門編（３）	史料読解に入る前に、例題を用いながらくずし字の読み方を紹介する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
5	史料読解（１）－　①	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
6	史料読解（１）－　②	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
7	史料読解（１）－　③	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
8	史料読解（１）－　④	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
9	史料読解（１）－　⑤	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	史料読解（1）- ⑥	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
11	史料読解（1）- ⑦	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
12	史料読解（1）- ⑧	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
13	史料読解（1）- ⑨	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
14	史料読解（1）- ⑩	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
15	史料読解（1）- ⑪	江戸時代に福島で作成された史料を読解しながら、くずし字の読み方を学ぶ。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
16	史料読解（2）- ①	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
17	史料読解（2）- ②	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
18	史料読解（2）- ③	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
19	史料読解（2）- ④	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
20	史料読解（2）- ⑤	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
21	史料読解（2）- ⑥	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
22	史料読解（2）- ⑦	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：興味を持った史料に関するレジュメの作成。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
23	史料読解（2）- ⑧	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：興味を持った史料に関するレジュメの作成。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
24	史料読解（2）- ⑨	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：興味を持った史料に関するレジュメの作成。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
25	史料読解（2）- ⑩	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：興味を持った史料に関するレジュメの作成。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	史料読解（2）- ⑪	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：授業内で紹介した史料を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
27	史料読解（2）- ⑫	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：授業内で紹介した史料を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
28	史料読解（2）- ⑬	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：授業内で紹介した史料を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
29	史料読解（2）- ⑭	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：授業内で紹介した史料を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べてくる。	30
30	史料読解（2）- ⑮	15回目までに学んだくずし字の知識を生かして、史料の取り扱い及び、史料読解を行って、史料の整理を実践する。	予習：授業内で紹介した史料を読んでくる。 復習：読めなかった文字（くずし字）を調べる。	30

令和7年度

授業名	日本宗教史演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎福島　寅太郎		
開講期			
授業の概要	前半は末木文美士氏の『日本宗教史』（岩波新書）を資料として使い、毎回輪読をし、日本宗教史の諸問題を学ぶ。後半は記紀神話、神仏習合、仏教の日本的変容、山岳信仰、天神信仰などについて具体的に考える。演習であるため、単に読むだけではなく、引用されている文献についても実際に確認したり、読んだりすることを求める。そうした作業を通じて、文献から読み取る日本宗教史に関する諸問題を理解する。東北における諸信仰の宗教性と歴史性について探ることを目的とする。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。		
授業の到達目標	授業を通じて以下のことを達成してほしい。 ①日本史における宗教のあり方を学ぶ。 ②宗教の歴史的展開を学ぶ。 ③宗教学という学問のまなざしで宗教を考える。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」		
履修条件	短大専攻科２年	**成績の 評価方法・基準**	試験成績60点、レポート提出20%、小テスト20%など。理解度８割で、合とする。
テキスト	さしあたり『日本宗教史』を指定したい、末木文美士著。岩波新書、2006年。丸善などの書店で買い求めることができる。		
参考書	末木文美士『日本宗教史』に引用されている関連文献のすべてが参考文献となる、		
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準	位置づけ・水準:CS2205		
ディプロマポリシーとの関係	DPとの関係:研究課題、論理的・創造的		
オフィスタイム	月曜日以外のお昼休みの時間。		
アクティブラーニング実施内容	自ら文献資料の調査を行い、課題を見つけること		
実務家教員の経歴	該当しない		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	後期のガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定ですので、必ず出席してください。	紹介された教科書に引用されている文献を参考資料として読み、理解すること	1.5
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場に日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。	紹介された教科書に引用されている文献を参考資料として読み、理解すること	1.5
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。	紹介された教科書に引用されている文献を参考資料として読み、理解すること	1.5
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。	紹介された教科書に引用されている文献を参考資料として読み、理解すること	1.5
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しそうとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本霊異記』を参考しながら授業を進める予定である。	紹介された教科書に引用されている文献を参考資料として読み、理解すること	1.5
6	神仏と中世（1）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5
7	神仏と中世（2）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的に取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5
8	世俗と宗教（1）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5
9	世俗と宗教（2）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	神道とナショナリズム（1）	近世の神道の展開などを話題にしながら、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	0
11	神道とナショナリズム（2）	近世の神道の展開などを話題にしながら、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5
12	近代化と宗教（1）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5
13	近代化と宗教（2）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的に取り上げてみることにしたい。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総括的に考えてみる予定である。	紹介された教科書および参考資料を読み、理解すること	1.5
15	前期の最終回､ミニテストを実施する。	前期内容についてのまとめ。	これまでの授業を振り返り、全体的な理解を行う。	1.5
16	日本宗教における山岳信仰の位置づけについて	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総括的に考えてみる予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
17	東北の山岳信仰について	出羽三山の信仰を探る	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
18	山岳信仰と供養について	山寺における供養について、その歴史的背景を探る。	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
19	東北における死者供養の諸相について	先行研究の紹介とその問題点について探る	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
20	恐山の死者供養について	恐山の死者供養についてのフィールドワークを踏まえ、イタコとは何かについて探る。	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
21	柳田国男の『遠野物語』の世界について	妖怪や河童信仰について考える。	紹介された文献を読み、理解すること	1.5
22	東北地方の宗教信仰をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、廃仏毀釈と神社、仏教の問題について探る。	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
23	「田村信仰」の広がりについて	「田村信仰」の東北地方への広がりについて具体的な事例を取り上げて述べる。	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
24	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の現状とその実態を写真などを通じて探る。	紹介された参考文献を読み、理解すること	0
25	会津地方における天神信仰の特徴	最近の調査を踏まえ、学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実態とその特徴について探る。	紹介された参考文献を読み。理解すること	1.5
26	庶民信仰と天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
27	天神信仰の現在ー地方神社における合格祈願を手がかりにー	最近の研究を踏まえ、神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
28	まとめ～その①東北の諸信仰の宗教性と歴史的性格	まとめに当たって、東北の諸信仰の宗教性と歴史性、地方的特徴について考える。	紹介された参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめ～その②東北の諸信仰の宗教性と歴史性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。	紹介された参考文献を理解すること	1.5
30	年度のまとめ	プリントを配布し、授業を進める	事前に配布されたプリントを読み、理解すること	1.5

令和7年度

授業名	日本女性史演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎知野　愛		
開講期	通年		
授業の概要	日本の近代女性労働史に関する文献資料を基に学ぶ。女性達の労働状況、労働環境がどのように変化したのかに焦点をあてる。数回レポート作成を求めるが、それに対して随時フィードバックを行う。 位置づけ・水準:CS2210		
授業の到達目標	授業目標は、近代女性労働史・教育史に関する文献資料を基にレポートを作成し指定日までに提出し(通年で5回)すること。理解度およびレポートの完成度ともに8割以上を目標とする。単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係:1)専門的知識、2)研究能力		
履修条件	文化学科専攻科文化学専攻2年生	**成績の 評価方法・基準**	レポート(通年5回)20点×5＝100点
テキスト	指定しない。資料配布		
参考書	総合女性史学会編『女性労働の日本史』勉誠出版2019、　阿部恒久・佐藤能丸『日本近現代女性史』芙蓉書房出版2002		
学生への要望	授業では文献を丹念に読み内容を理解し、各自が興味を持った内容をレポートのテーマとして決め、各自が主体的に調べまとめてレポートを発表するということを求めます。		
位置付け・水準	位置づけ・水準:CS2210		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係:1)専門的知識、2)研究能力		
オフィスタイム	(Ⅰ期)火曜Ⅱ限、Ⅳ限　(Ⅱ期)月曜Ⅱ限、Ⅲ限　　場所) 芸術館1階　地域創成学科No.1研究室		
アクティブラーニング実施内容	各自が授業内容の中からテーマを決めてレポートを作成、次の回で全員の前で発表した後に質疑応答し理解を深める。通年で5回設定(第6回7回、第13回14回、第19回20回、第24回25回、第29回30回)		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要の説明	シラバスに基づいて授業の概要、目標、成績評価の付け方等を説明する。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
2	日本近代女性労働史(1)	明治期以降の女性達の労働状況に関する文献を読む。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
3	日本近代女性労働史(2)	明治期以降の女性達の労働状況に関する文献を読む。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
4	日本近代女性労働史(3)	明治期以降の女性達の労働状況に関する文献を読む。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
5	日本近代女性労働史(4)	明治期以降の女性達の労働状況に関する文献を読む。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
6	レポート作成	指定のテーマについてレポートを作成し、指定日に提出する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
7	レポート発表、質疑応答	レポートを発表し質疑応答し、理解を深める。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
8	日本近代女性教育史(1)	明治期以降の女性教育史に関する文献を読み考察する。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
9	日本近代女性教育史(2)	明治期以降の女性教育史に関する文献を読み考察する。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
10	日本近代女性教育史(3)	明治期以降の女性教育史に関する文献を読み考察する。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
11	日本近代女性教育史(4)	明治期以降の女性教育史に関する文献を読み考察する。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
12	ここまでのまとめ・補足	授業内容を振返りまとめと補足をする。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
13	レポート作成	指定のテーマについてレポートを作成し、指定日に提出する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
14	レポート発表、質疑応答	レポートを発表し質疑応答し、理解を深める。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	中間まとめ・振り返り・補足	これまで学んだ内容を振返る。明治大正期の女性労働について学びの内容を確認する。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
16	農村女性と養蚕(1)	近代農村女性達の労働と養蚕に関する文献を読む。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
17	農村女性と養蚕(2)	近代農村女性達の労働と養蚕に関する文献を読む。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
18	農村女性と養蚕(3)	近代農村女性達の労働と養蚕に関する文献を読む。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
19	レポート作成	指定のテーマについてレポートを作成し、指定日に提出する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
20	レポート発表、質疑応答	レポートを発表し質疑応答し、理解を深める。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
21	主婦という労働(1)	近代家族の確立と主婦の家事育児に関する文献を読む。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
22	主婦という労働(2)	近代家族の確立と主婦の家事育児に関する文献を読む。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
23	女中の歴史	女中の歴史に関する文献を読み考察する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
24	レポート作成	指定のテーマについてレポートを作成し、指定日に提出する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
25	レポート発表、質疑応答	レポートを発表し質疑応答し、理解を深める。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
26	殖産興業と女子への教育(1)	近代日本の繊維産業で働いた女性達へ教育を授けることを重視した事例を文献から学ぶ。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
27	殖産興業と女子への教育(2)	近代日本の繊維産業で働いた女性達へ教育を授けることを重視した事例を文献から学ぶ。	復習：疑問点を調べ、課題に対応する。予習：次回の部分を予習し疑問点は調べておく。	60
28	殖産興業と女子への教育(3)	近代日本の繊維産業で働いた女性達へ教育を授けることを重視した事例を文献から学ぶ。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
29	レポート作成	指定のテーマについてレポートを作成し締切日までに提出する。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60
30	レポート発表・質疑応答	提出レポートを発表し質疑応答をする。レポートにコメントをつけてフィードバックする。	レポートのテーマに関する文献収集をする。図書館から書籍を借りて読むなど。	60

令和7年度

授業名	西洋文化史演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎桑野　聡		
開講期	通年		
授業の概要	西洋史を学ぶための基礎知識と基本姿勢を習得するために、参加学生の研究テーマの報告と質疑応答を繰り返すことで、各自のテーマの問題の所在、研究史上の問題点などを明らかにし、文献から借用してきた知識ではなく、自分のデータ・情報として利用する姿勢を強化していきたい。具体的にはヨーロッパの生活文化に関する文献を講読する。今年度は「紋章」をテーマとして中世～近世のヨーロッパ文化を考察する。 □報告と討論に対して修正点や課題を提示することでフィードバックする。　　CS2206		
授業の到達目標	テキストを自分なりに読み込んで、他の情報で補足・批判できる力の育成を目的とする。 各自の担当部分をきちんと要約し、他者と意見交換できることを単位認定の最低基準とする。 ディプロマ・ポリシーとの関係：　研究課題・論理的創造力		
履修条件	専攻科２年生	**成績の 評価方法・基準**	報告（50点）・授業態度・討論（50点）
テキスト	桑野聡「中世ヨーロッパ貴族の家と文化」（『郡山女子大学紀要』第40集　2004年）		
参考書	G.シャイベルライター／津山拓也　訳『中世紋章史』八坂書房　2019年（原著2014年）、M.パトゥスロー／平野隆文　訳『熊の歴史』筑摩書房　2014年（原著2007年）		
学生への要望	「高校世界史」程度の基礎知識と、議論に積極的に参加する姿勢を望む。		
位置付け・水準	CS2206		
ディプロマポリシーとの関係	研究課題・論理的創造力		
オフィスタイム	火曜Ⅰ時限目（8:50～10:20）・金曜Ⅴ時限目（16:10～17:40）　考古学研究室		
アクティブラーニング実施内容	報告と討論に対して修正点や課題を提示することでフィードバックする。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方を解説し、導入とする。	教科書となるテキストの特徴を理解する。	60
2	ウォーミングアップ①	紋章の歴史について、概要を確認する。	参考文献を確認する。	120
3	ウォーミングアップ②	紋章のに取り上げられる図像について概要を解説する。	参考文献の確認する。	120
4	講読①	紋章に採用されるモチーフとして人間について解説する。	人体の各部分や女性、異人が意味するものを確認する。	120
5	講読②	紋章に採用されるモチーフとして、ライオンについて解説する。	ライオンを採用する多くの事例を確認する。	120
6	講読③	紋章に採用されるモチーフとして、鷲について解説する。	鷲の事例を確認する。	120
7	講読④	紋章に採用されるモチーフとして、熊や鹿、狼といった野生動物について解説する。	多様な事例を確認する。	120
8	講読⑤	紋章に採用されるモチーフとして、ドラゴンやユニコーンなど架空の生き物について解説する。	多様な事例を確認し、それぞれの伝説を確認する。	120
9	講読⑥	紋章の成立する盛期中世以降、後期中世（14～16世紀頃）に成立する紋章学（紋章記述）についいて解説する。	参考文献を確認する。	120
10	講読⑦	紋章と色の関係について解説する。	参考文献を確認する。	120
11	講読⑧	紋章の様式化について解説する①	議論する姿勢を大切にする。	120
12	講読⑨	紋章の様式化について解説する②	同上	120
13	講読⑩	紋章の色彩、配置の違いによる使い分けについて解説する。	事例の確認をしっかり行う。	120
14	講読⑪	紋章の違いによる識別の意味、活用について解説する。	事例の確認をしっかり行う。	120
15	前期まとめ	前期で扱ったヨーロッパの生活文化について議論する。	積極的に議論に参加する姿勢を大切にしよう！	120
16	後期ガイダンス	後期の授業の進め方を確認する。	夏休みの研究活動を整理して授業に臨もう。	30
17	講読❶	紋章官の成立と確立について解説する。	盛期中世～後期中世における社会の価値基準の移行に注目しよう。	120
18	講読❷	宮廷における紋章官の役割について解説する。	宮廷社会という存在を想像してみよう。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	講読❸	「シンボルとしての紋章」について解説する①	質疑応答などに積極的に参加する。	120
20	講読❹	「シンボルとしての紋章」について解説する②	同上	120
21	講読❺	紋章と伝説について解説する①	質疑応答などに積極的に参加する。	120
22	講読❻	紋章と伝説について解説する②	同上	120
23	講読❼	「架空紋章」について解説する①	質疑応答などに積極的に参加する。	120
24	講読❽	「架空紋章」について解説する②	同上	120
25	まとめ作業①	ライオン紋章の問題について、桑野の参考文献を使って解説する。	参考文献を確認する。	120
26	まとめ作業②	パストゥローの『熊の歴史』を使って、ライオン紋章の成立の問題を問い直す。	質疑応答などに積極的に参加する。	120
27	まとめ作業③	同上	同上	120
28	まとめ作業④	熊からライオンに「百獣の王」を変更させたキリスト教、カトリック教会の役割を解説する。	中世の教会史と照合して確認する。	120
29	まとめ作業⑤	紋章文化の成立過程で、在地的な異教文化がキリスト教化に駆逐され、あるいは融合されていく歴史を確認する。	紋章問題をヨーロッパ文化として見る視点を確認する。	120
30	まとめ	ヨーロッパの生活文化の特徴を考える。	美術や文学など、時代を表現するツールを手に取ってみよう。	60

令和7年度

授業名	西洋美術史演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎斎藤　美保子		
開講期	Ⅲ・Ⅳ		
授業の概要	論文を含む和文、英文の基本文献を精読し、美術史の方法論を理解し、各自のテーマに取り組む。 図版を含みA4、5枚程度のレポートをまとめる。 少人数教育ゆえ、学生の学修の進み具合を評価し、授業内で伝える。 CS2207		
授業の到達目標	①西洋美術史の最新の学問的成果に関心を持ち、ある程度理解できるようになる。 ②西洋美術を調査、分析する基礎力を持つ。 ③論理的な思考と文章表現ができるようになる。 単位認定の最低基準：特例適用専攻科の学生として、学位授与機構に報告するレポートに準ずるレポートを完成させること。 DPとの関係：研究課題を適切に設定、論文を論理的・創造的にまとめる力		
履修条件	専攻科2年生 専攻科1年生の「フランスの歴史と文化」を取得していることが望ましい。	**成績の 評価方法・基準**	授業中の進捗状況（50点） レポート（50点） 80点以上を目指すこと。
テキスト	学生の興味関心に応じて決める。		
参考書	大学図書館で10冊程度紹介する。		
学生への要望	西洋美術史は幅広いので、興味関心の強い、独創的なテーマをみつけ、精緻な調査と論理的な文章、説得力のある発表を目指してほしい。英文資料を含む参考文献の読解を課す。		
位置付け・水準	専門的科目　西洋史に関する科目　CS2207		
ディプロマポリシーとの関係	研究課題を適切に設定し、論文を論理的・創造的にまとめる力。		
オフィスタイム	火曜日16：10－17：05　金曜日10：40－11：40		
アクティブラーニング実施内容	各自がテーマを決めて、文献調査と実作鑑賞を重ね、自主的にレポートを作成する。		
実務家教員の経歴	なし。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	過去の学生のレポートを紹介し、学生個々のテーマを相談する。	1年間取り組むテーマをよく考える。	100
2	基本文献	テーマに沿って、精読すべき基本文献を選定する。	図書館等で参考文献を手に取り、吟味する。	100
3	読解 1	基本文献①を精読する。	①を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
4	読解 2	基本文献①を精読する。	①を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
5	読解 3	基本文献①を精読する。	①を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
6	読解 4	基本文献①を精読する。	①を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
7	美術館見学	近隣の美術館の展示を見学する。	見学ノートをまとめる	100
8	美術館資料調査	近隣の美術館で収蔵品に関わる資料を調査する。	調査ノートをまとめる	100
9	美術館見学記録	見学で得た知見と感想を口頭で発表し、1200字程度の文章に記録する。	発表の準備と振り返り	100
10	先行研究調査	学術雑誌「美術史」「美術史研究」「美学」から先行論文を探す。	コピーを取り、資料として整理する。	100
11	論文読解 1	論文①を精読し、論旨をまとめる。	論文を読み込み、理解を深める。	100
12	論文読解 2	論文②を精読し、論旨をまとめる。	論文を読み込み、理解を深める。	100
13	論文読解 3	論文③を精読し、論旨をまとめる。	論文を読み込み、理解を深める。	100
14	英文読解 1	英文資料を読解し、和訳する。	日本語として読みやすい和訳にする。	100
15	英文読解 2	英文資料を読解し、和訳する。	日本語として読みやすい和訳にする。	100
16	英文読解 3	英文資料を読解し、和訳する。	日本語として読みやすい和訳にする。	100
17	和訳中間まとめ	途中までの和訳を検討する。	今までの和訳を修正する。	100
18	英文読解 4	英文資料を読解し、和訳する。	日本語として読みやすい和訳にする。	100
19	英文読解 5	英文資料を読解し、和訳する。	日本語として読みやすい和訳にする。	100
20	和訳最終まとめ	和訳を完成し、論旨を理解する。	論文を充分に理解する。	100
21	読解 5	基本文献②を精読する。	②を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
22	読解 6	基本文献②を精読する。	②を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
23	読解 7	基本文献②を精読する。	②を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
24	読解 8	基本文献②を精読する。	②を読み込み、要点をノートにまとめる。	100
25	関連調査 1	テーマの問題点を解決するために、関連資料を調査する。	関連資料を読み込む。	100
26	関連調査 2	テーマの問題点を解決するために、関連資料を調査する。	関連資料を読み込む。	100
27	レポートの章立て	論理的なレポートとなる様、章立てを検討する。	レポートを書き進める。	200
28	レポート執筆における諸注意	引用文の示し方、文献目録の表記等、レポート執筆における注意を確認する。	レポートを完成させる。	200
29	レポートの完成と講評	レポートを完成し、発表する。それに対し、講評する。	レポートを振り返る。	200
30	要旨の完成と講評	要旨をまとめ、発表する。それに対し、講評する。	レポートの要旨をまとめる。	200

令和7年度

授業名	中国文化史演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎渡部　東一郎		
開講期			
授業の概要	前期は唐代文人の手になる短編小説「唐代伝奇」の中から、後期は清朝初期の人、蒲松齢が著した怪奇小説集『聊斎志異』の中から数篇を取り上げ、輪読形式で読解していく。 なお、期末試験は採点後、添削の上、返却する。		
授業の到達目標	①漢文を訓読によって正確に解釈できる。 ②現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深めることができる。 単位認定の最低基準は、内容の７割を理解していること。		
履修条件	専攻科 文化学専攻 ２年	**成績の 評価方法・基準**	①前期・後期の期末試験：各30点 ②出席・授業参加度：40点
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	授業内で必要に応じて指示する。		
学生への要望	予習の際に原文に対する自分なりの理解を得た上で受講することが大切である。なお、中型漢和辞典(相応の電子辞書も可)を毎回持参すること。		
位置付け・水準	CS2208		
ディプロマポリシーとの関係	1), 2)		
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目標と流れについて説明する。	授業の目標と流れ、配付資料を確認する。	30
2	「唐代伝奇」読解(１)	「離魂記」輪読	配付資料の予習・復習する。	60
3	「唐代伝奇」読解(２)	「李徵（人虎伝）」輪読①	配付資料の予習・復習をする。	60
4	「唐代伝奇」読解(３)	「李徵（人虎伝）」輪読②	配付資料の予習・復習をする。	60
5	「唐代伝奇」読解(４)	「李徵（人虎伝）」輪読③	配付資料の予習・復習をする。	60
6	「唐代伝奇」読解(５)	「板橋三娘子伝」輪読	配付資料の予習・復習をする。	60
7	「唐代伝奇」読解(６)	「定婚店」輪読①	配付資料の予習・復習をする。	60
8	「唐代伝奇」読解(７)	「定婚店」輪読②	配付資料の予習・復習をする。	60
9	「唐代伝奇」読解(８)	「杜子春伝」輪読①	配付資料の予習・復習をする。	60
10	「唐代伝奇」読解(９)	「杜子春伝」輪読②	配付資料の予習・復習をする。	60
11	「唐代伝奇」読解(10)	「杜子春伝」輪読③	配付資料の予習・復習をする。	60
12	「唐代伝奇」読解(11)	「枕中記」輪読①	配付資料の予習・復習をする。	60
13	「唐代伝奇」読解(12)	「枕中記」輪読②	配付資料の予習・復習をする。	60
14	「唐代伝奇」読解(13)	「枕中記」輪読③	配付資料の予習・復習をする。	60
15	まとめ	前期授業の内容を踏まえたまとめを行う。	前期授業の内容をまとめる。	60
16	『聊齋志異』読解(1)	「考城隍」輪読①	配付資料の予習・復習をする。	60
17	『聊齋志異』読解(2)	「考城隍」輪読②	配付資料の予習・復習をする。	60
18	『聊齋志異』読解(3)	「王六郎」輪読①	配付資料の予習・復習をする。	60
19	『聊齋志異』読解(4)	「王六郎」輪読②	配付資料の予習・復習をする。	60
20	『聊齋志異』読解(5)	「王六郎」輪読③	配付資料の予習・復習をする。	60
21	『聊齋志異』読解(6)	「労山道士」輪読①	配付資料の予習・復習をする 。	60
22	『聊齋志異』読解(7)	「労山道士」輪読②	配付資料の予習・復習をする。	60
23	『聊齋志異』読解(8)	「労山道士」輪読③	配付資料の予習・復習をする。	60
24	『聊齋志異』読解(9)	「酒虫」輪読	配付資料の予習・復習をする 。	60
25	『聊齋志異』読解(10)	「促織」輪読①	配付資料の予習・復習をする 。	60
26	『聊齋志異』読解(11)	「促織」輪読②	配付資料の予習・復習をする 。	60
27	『聊齋志異』読解(12)	「促織」輪読③	配付資料の予習・復習をする 。	60
28	『聊齋志異』読解(13)	「緑衣女」輪読①	配付資料の予習・復習をする 。	60
29	『聊齋志異』読解(14)	「緑衣女」輪読②	配付資料の予習・復習をする 。	60
30	まとめ	後期授業の内容を踏まえたまとめを行う。	後期授業の内容をまとめる。	60

令和7年度

授業名	考古学演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 選択必修
担当教員名	◎會田　容弘		
開講期			
授業の概要	考古資料を用いた実際的研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。発掘調査に参加し、出土した資料整理を通し、実際の考古資料を扱いその観察方法、記述方法を学び、実践する。さらに、実物資料認識の方法、その資料の関連研究を中心にまとめ、発表をおこない、学生同士の討論を行い、学習を深めて行くのが目標である。 本学では２００１年以来会津若松市湊町大字赤井字笹山原に位置する笹山原遺跡Ｎｏ．１６の発掘調査を継続して行っている。笹山原遺跡Ｎｏ．１６は平安時代、縄文時代前期、後期旧石器時代の複合遺跡でそこから出土した資料を用いて、実践的な演習を行う。 発掘資料の整理、データ整理、記録法、写真撮影などの実践を踏まえて、資料に対する認識力を深め、論文読解を経て、学術的議論ができるような訓練を行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CS2209		
授業の到達目標	＜到達目標＞考古資料の理解を経て、考古資料の考古学的基礎に基づいた記述が可能なレベルにまで到達できること。 考古学の学術論文を読み、批判的に検討できるレベルに到達すること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。		
履修条件	考古学の十分な理解があること	**成績の 評価方法・基準**	レポート及び発表内容(レポート70%、発表30%)で60点以上の理解度で、合とする。考古学で論文を作成する学生は80点以上の理解度を求める。
テキスト	イニザン他『石器研究入門』 山中一郎「考古学における方法の問題」		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第４～21集　地域創成学科報告集第1～５集		
学生への要望	考古学実習発掘に参加すること。発表と議論が中心になるので事前の準備を十分行うこと。事前準備が予習にあたる。発表内容への指摘点、修正指導点は復習としておこなってほしい。		
位置付け・水準	専門職を目指す学生の最終段階である。考えながら、行動してほしい。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：研究課題と論理的・創造的		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。		
アクティブラーニング実施内容	発掘調査、整理作業は自主性が重んじられる。自分がやらなければ、全体が進まない。最上級学年なので、後輩の指導も求められる。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	考古学演習の説明	演習の進め方についての説明。	過去の発掘調査の理解。	60
2	発掘調査準備（１）	笹山原遺跡Ｎｏ．１６の発掘調査を行うにあたっての基本的な準備を行う。機材の確認、機材の操作方法の確認、発掘調査過程の確認を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
3	発掘調査準備（２）	発掘調査に用いる図面、遺物カード、手引きなどの製作を行う。	過去の発掘調査の理解。	60
4	発掘調査実習（１）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
5	発掘調査実習（２）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
6	発掘調査実習（３）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱａ層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	60
7	発掘調査実習（４）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
8	発掘調査実習（５）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
9	発掘調査実習（６）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅱｂ層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
10	発掘調査実習（７）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
11	発掘調査実習（８）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
12	発掘調査実習（９）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
13	発掘調査実習（１０）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
14	発掘調査実習（１１）	笹山原遺跡N0.１６の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	60
15	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（１）	実際に出土した笹山原遺跡Ｎｏ．１６の石器遺物の全体を観察する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（２）	石材分類。笹山原遺跡Ｎｏ．１６から出土する石器遺物は様々な石材が用いられている。石材を理解し、その石材別の分類を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
17	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（３）	母岩分類。同一の石材であっても、異なる母岩から製作されている。中には同一母岩から剥離された石器が存在することがある。それらを認識し分類する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
18	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（４）	同一母岩に分類したものの中で、遺跡の中で剥片剥離行為がなされた場合、まれに接合する場合がある。それを捜し求める作業を行う。全部のピースがそろっていない立体ジグソーパズルである。接合する資料が確認された場合、それはその石器が持ち運ばれたか、石器製作中に飛び散ったかなどという具体的に石器時代人の行為を実証することができる。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
19	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（５）	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
20	笹山原遺跡No.１６の石器遺物観察（６）	石器接合作業。石材、同一母岩データのデータベースへの入力。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
21	石器の記録（１）	石器の記録方法として実測と写真撮影がある。その基本を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
22	石器の記録（２）	写真撮影と実測を実際に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
23	土師器の写真撮影	土師器の記録方法として写真撮影を行う。デジタルカメラを用いて、ライティングを調節しながら行 う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
24	土師器の観察（１）	土師器の破片資料の観察を行う。観察表の作成を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
25	土師器の観察（２）	土師器の観察表を作成し、集計を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
26	土師器の実験考古学	粘土を用いて土師器を実験的に製作する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
27	縄文土器の理解	笹山原遺跡Ｎｏ．１６から出土した縄文土器破片を観察し、との特徴を調べる。胎土、文様、器形、調 整などの要素の見かたについて説明し、実際の遺物解説の発表を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
28	縄文土器の記録	縄文土器の記録方法として、拓本をとる。拓本の技術は既に修得しているので、実際に笹山原Ｎｏ．１ ６遺跡出土の縄文土器を採拓し、前回の観察内容を記述し、発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
29	縄文時代の石器理解	縄文時代の石器を検討する。笹山原Ｎｏ．１６遺跡から出土した縄文時代の石器を取り上げ、その石 材、製作技術の特徴についてそれぞれ発表する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60
30	縄文時代の石器の記録	石器を理解したうえで、写真撮影、実測を行う。撮影方法、実測方法については、博物館実習、日本の 考古学で修得していることを前提に行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	60

令和7年度

授業名	文化史総合演習	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 2年 4単位 必修
担当教員名	◎桑野　聡 福島　寅太郎 會田　容弘 知野　愛		
開講期	通年		
授業の概要	短大1年次の「ヨーロッパ文化史」では、古代の先進的地中海文明世界が3世紀以降変容し、再編されてくる過程で様々な地域文化・民族文化の影響を受けながら諸要素を融合させることで中世にヨーロッパ文化が形成され、更に中世後期から近世を経て近代化を進める過程で他の文化圏を凌駕する存在となり、西洋化を大きな特徴とする近代を迎えるが、20世紀の二度の世界大戦と東西冷戦を経て、現在の私たちはヨーロッパのみを手本とするのではないグローバル文明の形成を模索する時期を迎えているという全体像を学んだ。短大2年次の「ヨーロッパ史演習」では、具体的な時代や地域の生活文化がどのように変化・変容していったかを幾つかの事例から学び、専攻科学生のそれぞれの研究テーマに繋がっている。本科目では、中世ヨーロッパを手がかりに、異なる時代・地域の生活文化がどのような影響を受けながら変容していくのかを社会史的考察方法を用いながら学んでいくことで、近代社会の特色を理解する視点と知識を養う。 □報告と討論に対して修正点や課題を提示することでフィードバックする。　　CS2211		
授業の到達目標	本授業は歴史学(西洋史）の学士レベルの学識を得ることを目標とする。具体的には事件・人物・年代などの基礎知識に止まらず、歴史資料を読み込む能力を身に付けることで、社会的・政治的・経済的・文化的な多様な歴史要因が複雑に関係史ながら特定の時代や地域における歴史事象が成立し展開することを理解できるようになり、客観的な実証性のある意見を叙述できるようになることを目指す。基本的には西洋史の邦語文献をきちんと読み込んで、批判的に利用できる力を身に付け、論文にまとめて学会形式の発表会で報告・質疑応答に対応できることを目標とする。 ディプロマ・ポリシーとの関係：　論理的創造力・社会貢献		
履修条件	専攻科２年生	**成績の 評価方法・基準**	報告（50点）・授業態度・討論（50点）
テキスト			
参考書	必要に応じて随時提示。		
学生への要望	「高校世界史」程度の基礎知識と、議論に積極的に参加する姿勢を望む。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム	火曜Ⅰ時限目（8:50～10:20）・金曜Ⅴ時限目（16:10～17:40）　考古学研究室		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方を解説し、導入とする。	各自の研究テーマと授業内容の関係を考える。	60
2	講読①	各テキストの講読。	授業なで提示された参考文献を読む。	120
3	講読②	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
4	講読③	同上	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
5	講読④	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
6	講読⑤	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
7	講読⑥	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
8	講読⑦	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
9	講読⑧	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
10	講読⑨	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
11	講読⑩	同上。	議論する姿勢を大事に考えを整理し、まとめるプロセスをトレーニングしよう！	120
12	中間発表準備①	8月の中間発表に備えて章立てを確認する。	自身の章立て案を提示する。	120
13	中間発表準備②	前回の相談を踏まえて、各自が発表する。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
14	中間発表準備③	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	中間発表準備④	パワーポイントと発表原稿を完成させる。	自身の読み直しによる最終チェックを十分に行おう！	120
16	後期ガイダンス	後期の授業の進め方を確認する。	夏休みの研究活動を整理して授業に臨もう。	30
17	講読⑪	中間発表と夏休みの進捗状況を踏まえて、必要な各テキストの講読。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
18	講読⑫	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
19	講読⑬	同上。	題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
20	講読⑭	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
21	講読⑮	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
22	講読⑯	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
23	講読⑰	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
24	講読⑱	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
25	講読⑲	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
26	講読⑳	同上。	課題範囲を読み込み、レジュメにまとめる。	120
27	研究成果まとめ①	『卒業研究の要旨』掲載用の原稿執筆。	自分の研究レポートを完成させて要旨案を提出。	120
28	研究成果まとめ②	論文の完成を目指して註・資料の提示を確認。	短大の卒業研究を踏まえて研究レポートを完成させる。	120
29	研究成果まとめ③	最終報告会の準備としてパワーポイントと発表原稿を作成する。	自身のパワーポイントと原稿を提出。	120
30	まとめ	最終発表のための最終確認。	堂々と最終発表をやり遂げよう！	60

令和7年度

授業名	哲学的人間論	**配当年次 単位数**	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎野口　周一		
開講期	前期		
授業の概要	本講義のねらいは、教育哲学者・松田高志氏の『いのち輝く子ら』を読み込みながら、教育観のあり方を考えていくところにあります。特に焦点をあてるところは、「教育とは子どもを社会に適応させること、あるいは子どもがそうなるように手助けすること」という考えは、この社会においては常識であるでしょう。しかし、教育ははたしてそのように限定されたものでしょうか。本講義では、教育とは何か、子どもとはどういうものか、人間とはどういうものか、について考えていきます。		
授業の到達目標	1，受講者は、「狭い教育観」と「広い教育観」の違いを考えることにより、子どもたちの成長と私たちの人間的成長をともに理解することができること。 2，上記の点を考えながら、自分の人間としての生き方やあり方について、自分なりの回答をえることができること。		
履修条件		**成績の 評価方法・基準**	毎回、調べるべき課題が出てきます。それらを一つひとつ消化しながら理解を深めます。その際、グループ学習で行うこともあります。その課題の評価を80％とします。最終課題についてはレポートを作成し、発表し、討論をしていただきます。その評価を20％とします。
テキスト	松田高志著『いのち輝く子ら』（ＮＰＯ法人くだかけ会）を使用します。		
参考書	その都度、明示はしていきたい。		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を望みます。		
位置付け・水準	GU1102		
ディプロマポリシーとの関係	冒頭の「人間を護り、人間生活の向上と社会の発展を目指し、生活・福祉・建築のそれぞれの専門分野で、人文・社会・自然にわたる基礎的知識を総合的に用いつつ」という点を、特に重視する。		
オフィスタイム	講義の中でご連絡いたします。		
アクティブラーニング実施内容	テキストを講読しつつ（指名して音読する）、問題点については、その都度調べ、学習する。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもとは何か（1）	まず授業の進め方、グループ別討議の仕方などを説明いたします。「神の最高の啓示とは」「無邪気さの世界」について考えます。	予習・復習	40
2	子どもとは何か（2）	「貝殻や石ころ」「刺戟控えめ」「お古のスリッパ」について考えます。	予習・復習	40
3	子どもとは何か（3）	「矛盾のまま」「神聖な謎」について考えます。	予習・復習	40
4	教育の本筋（1）	「自然の恵み」「笑顔と無邪気な没頭」について考えます。	予習・復習	40
5	教育の本筋（2）	「子どもの生きる場」「親の醸し出す雰囲気」について考えます。	予習・復習	40
6	教育の本筋（3）	「学校の選択」「平和の道」について考えます。	予習・復習	40
7	学びの世界（1）	「同じでないと」「喜ばしき驚き」びついて考えます。	予習・復習	40
8	学びの世界（2）	「胸ふくらませて」「意・情・知」について考えます。	予習・復習	40
9	学びの世界（3）	「幸せな知」「心の眼」について考えます。	予習・復習	40
10	学びへのサポート（1）	「勇気づけ」「期待と信頼」について考えます。	予習・復習	40
11	学びへのサポート（2）	「未完の大器」「成長を信じ味わう」について考えます。	予習・復習	40
12	子ども・大人・生涯の学び（1）	「いのちのシャワー」「魅力ある人」について考えます。	予習・復習	40
13	子ども・大人・生涯の学び（2）	「にもかかわらず」「うぶの反対」について考えます。	予習・復習	40
14	子ども・大人・生涯の学び（3）	「いのちの正体に目覚める」「どこへ行く」「生涯の学び」について考えます。	予習・復習	40
15	総括	「出会い」の意味について考えます。	予習・復習	40

令和7年度

授業名	食生活概論	**配当年次 単位数**	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎郡司　尚子		
開講期			
授業の概要	日本の食の歴史について学び、現在の食の多様性、食形態、問題点などをについて学び、食と健康、日本の食文化の変遷と現状について学ぶ。さらに、望ましい食生活とは、何かについても考えていく。 【課題に対するフィードバックの方法】 各分野毎に課題レポートを実施し、全員で答え合わせを行い、不足点を教員が補う。テストは回収し、不足点があれば追記し、翌週に返却する。		
授業の到達目標	日本の食生活の変遷を知り、現在の「食」の問題点や「食」の大切さを理解する。 「食」の大切さを理解することで、実生活で役立つ理論と実践の素養を身につける。 【履修カルテの評価項目】 ①「食生活」が、さまざまな物と人との相互作用によって構築されていることを、どの程度理解できたか。 ②食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を、どの程度養うことができたか。 ③国が定めた「健康」や「表示」に関する制度を、どの程度理解できたか。 【単位認定方法の最低基準】　授業内容の80％を理解していること。		
履修条件	家政学部 生活科学科１年	**成績の 評価方法・基準**	①課題レポートおよび発表　50％ ②筆記試験(授業内)　50％
テキスト	必要に応じて印刷し配布する。		
参考書	なし		
学生への要望	１．私語を慎み、意欲的に取り組んで下さい。 ２．体調不良などで、授業に出席できなかった場合は、その日の授業内容について、友人や担当者に確認するなどして、不足分は自分で補って下さい。 ３．食生活を取り巻く周辺は多岐にわたっています。日常生活の各場面において、常に食との関わり方に興味を示してください。		
位置付け・水準	HL2134		
ディプロマポリシーとの関係	①知識・理解　②倫理観・社会的責任		
オフィスタイム	火曜日１コマ、水曜日２コマ(食品学研究室)		
アクティブラーニング実施内容	食品表示についてまとめたレポートを活用し口頭発表を行い、質疑応答を行う。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の目的・ガイダンス 食生活の変遷と現在の食生活の問題	授業の進め方や評価方法、事前事後学習の必要性などについて、シラバスに沿って説明を行う。 その後、人と「食」の関りとして、「食」の大切さについて考える。 食物の歴史的変化、食物連鎖について学んだ後、食品を分類する方法（生活様式による分類、起源による分類、食品成分表による分類、栄養成分の類似性による分類など）について学ぶ。日本人がどのような食生活を送ってきたかについて説明する。日本人の現在の食生活の問題点について学ぶ。	自己の食生活を振り返り、食の大切さについて考えてみる。	30
2	自分の食生活について考える	食事バランスがガイドについて説明し、各人の普段の食生活につい振り返り、自身の食生活の問題点について考える。	食料と環境問題について、自分なりに調べて予習しておく。	60
3	食料と環境問題	食料生産と食料自給率、地産地消や食品廃棄問題などについて説明を行い、それぞれの現在の状況、問題点を交えながら学ぶ。	学んだ内容から、次週グループディスカッションを実施するので、ディスカッションしたいテーマについて検討しておくこと。	60
4	食料と環境問題	食料と環境問題について、学んだ内容からグループに分かれてテーマを決め、ディスカッションを行い、一人一人意見を出し合いながら掲げたテーマの問題点、原因考え、その解決策についてポスターにまとめる。各グループでポスターを使って発表を行う。	ディスカッションを行うテーマについて、次週発表できるように、考えをまとめておくこと。	
5	食料と環境問題	食料と環境問題について、学んだ内容からグループに分かれてテーマを決め、ディスカッションを行い、一人一人意見を出し合いながら掲げたテーマの問題点、原因考え、その解決策についてポスターにまとめる。各グループでポスターを使って発表を行う。	次週から食品表示について学ぶため、各人普段購入している食品のパッケージを集めて、表示についてもよく見ておく。	
6	食品表示について①	JAS法に基づく食品表示は品質の表示基準であるとともに、遺伝子組み換え食品の表示、加工食品の原料原産地表示、期限表示などがあり、その表示法について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	各人が普段購入しているパッケージや店頭などで食品のパッケージになされている表示についてよく見て、学んだ内容がどの様に表示されているかなどについてよく観察する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	食品表示について②	食物アレルギーの表示制度について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。 特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	各人が普段購入しているパッケージや店頭などで食品のパッケージになされている表示についてよく見て、学んだ内容がどの様に表示されているかなどについてよく観察する。	60
8	食品表示について③	特定保健用食品制度の概要および許可の条件、特別用途食品制度の概要および新設の総合栄養食品、栄養表示基準制度の概要および表示の種類について理解する。なお、学生が持参した食品のパッケージの表示を各自確認させながら授業を進める。	各人が普段購入しているパッケージや店頭などで食品のパッケージになされている表示についてよく見て、学んだ内容がどの様に表示されているかなどについてよく観察する。また、その中で特別用途食品、特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品のいずれかの食品を購入し、パッケージについて所定の用紙でレポートを作成する。	60
9	食の安全、食品の保存法について	食品の保存に大きく影響する微生物とのかかわりについて学び、食品の保存が環境により影響を受けることを理解する。 水分活性について学び、水分活性のコントロールと微生物の繁殖への影響を理解する。	食品の保存に関わる水分の関りについて復習する。	60
10	おいしさの基本理念	「食べ物のおいしさ」には、外観、香り、味、テクスチャー、音などの五感によってとらえられる生理的なおいしさがある。また、食物の認知や好き嫌いは、脳の第２次味覚野で統合されて判断される。おいしい、まずいは慣れへの依存であり、幼児期に刷り込まれた味が強固となって食嗜好が形成されることを理解する。	食べ物のおいしさの基本理念についてしっかりと復習しておく。次週から行うライフステージ別の食の特徴と役割について文献などを通じて予習しておく。	60
11	ライフステージにおける食の特徴と役割①	妊娠期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の食の特徴と役割について理解する。	ライフステージ別の食の特徴と役割について文献などを通じて予習しておく。	60
12	ライフステージにおける食の特徴と役割②	壮年期、中年期、老年期の食の特徴と役割について理解する。	西洋料理や中国料理などの特徴について予習しておく。	60
13	世界の食文化 食空間の在り方①	日本以外の国の食文化(西洋料理、中国料理など)について、簡単に特徴や習慣などを説明し理解する。 食は食べることだけでなく、食環境(空間や内装デザイン、テーブルコーディネートなど)も欠かせない要素であるため、食環境についても学び、よりよい食生活のあり方について考える。	筆記試験に向けて、本授業で学んだことについて、しっかりと復習し、要点をまとめておく。	60
14	食空間の在り方②	前週に引き続き、食環境(空間や内装デザイン、テーブルコーディネートなど)も欠かせない要素であるため、食環境についても学び、よりよい食生活のあり方について考える。	食環境について復習をする。筆記試験に向けて、本授業で学んだことについて、しっかりと復習し、要点をまとめておく。	60
15	レポート発表 筆記試験、解説	本授業のまとめとして、筆記試験を行い、その解答について解説を行う。 特別用途食品、特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品のいずれかの食品を購入し、所定の用紙にまとめたレポートについて、レポートを提示しながら口頭発表を行う。その際発表内容について、学生、教員でディスカッションを行う。	他の受講生のレポート発表を見て学んだ知識を生かし、意識して食品表示を確認する。	60

令和7年度

授業名	住生活概論	**配当年次 単位数**	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎阿部 恵利子		
開講期			
授業の概要	住まいに求められる機能は、多様化する現代社会においてきわめて複雑である。しかし、住まいにおける「社会の原点」「安らぎの場」という役割は普遍的でなければならない。本授業では、これからの住まいがどうあるべきかの答えを導き出すために、住まいに関する成り立ちや住まい方計画、構造、環境問題、福祉住宅にまで視野を広げて講義する。また、後半にはこれらの理論を応用して設計製図の基礎を学ぶ。課題に対する発表及びレポート提出後、コメント等によるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	広い視野で物事を捉え、住生活に関わる基礎的知識を総合的に理解する。さらに社会及び家庭生活における諸問題について考察し、学んだ知識や技術を活用して問題解決を図ることができる。単位認定の最低基準は以下の①～④について7割達成していること。 ①わが国の住宅におけるＭＤ及び気候風土との関連について理解する。 ②家族と間取りとの関連について考察する。 ③UD住宅の在り方について理解する。 ④簡単な住宅設計製図の内容を読み取る。		
履修条件	生活科学科	**成績の 評価方法・基準**	①定期試験７０％ ②提出図面３０％
テキスト	私たちの住居学ーサスティナブル社会の住まいと暮らしー （株式会社オーム社） 編著者：山根芳一		
参考書	「住宅の計画学入門」鹿島出版会 「ﾀﾞｲﾆﾝｸﾞ ｷｯﾁﾝはこうして誕生した」技報堂出版		
学生への要望	現代における住まいの問題点を把握するために、新聞等に目を通す習慣を身に付けること。		
位置付け・水準	DS2145		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、論理的思考力、問題解決力、倫理観社会的責任		
オフィスタイム	家政学館4階　生活科学研究室　16時30分以降		
アクティブラーニング実施内容	住宅図面の作成およびディスカッション		
実務家教員の経歴	高等学校家庭科教員		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	これからの授業内容や進め方、目的を説明する。また、私たちの住生活をとりまく問題について考える。	新聞等に目を通し、日頃から住生活における問題に目を向ける。	60
2	サスティナブル社会の住まい	サスティナブルな社会の必要性ついて理解し、様々な住生活の諸問題について考える。	住まいづくり・住まい方に望まれる姿勢について、自分の考えをまとめておく。	60
3	住生活と住まいの変遷	日本の風土的特徴を踏まえながら、気候風土と住まいの形態及び地域性と住まいについて確認する。	日本の気候風土、地域性についてまとめる。	60
4	家族と住まいの変遷1	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。	住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。	60
5	家族と住まいの変遷2	現在の住まいの構造や形式は非常に多様であるが、住まいの変遷を辿ると各時代の家族観がその平面構成に反映されていることを確認する。	住まいの変遷と平面構成の変化を確認する。	60
6	住まいの維持管理	住まいの寿命と維持管理について理解し、住宅の老朽化を防ぎ長持ちさせる住まい方を考える。	住まいの維持管理ついて考え、住まい方を考察する。	60
7	住まいに必要な環境調整	住まいの温熱環境やアレルギーとシックハウスの要因について理解し、健康で快適な住まいを創造する。	快適な住環境について考察し、まとめる。	60
8	子どもの成長発達と住まい1	子どもの成長発達と住環境について考察し、内在する問題について考える。	子育て家族の住まいについて考察する。	60
9	子どもの成長発達と住まい2	子どもの成長発達と住環境について考察し、内在する問題について考える。	子育て家族の住まいについて考察する。	60
10	高齢者と住環境	高齢者の身体的特徴を踏まえながら、住居内での事故を防止するための手すりや段差解消の方法について学ぶ。また、現代社会における基礎的問題として、介護保険制度について理解し、高齢者の自立促進及び介護者の負担軽減を目的とした居住環境整備について考える。	介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。	60
11	これからの社会と住まい	住まいの保存や再生、環境共生、高齢者対応住宅について学び、これからの社会と住まい・リフォーム設計について考える。	介護保険制度を踏まえながら、住居内の事故防止のための方策についてまとめる。	60
12	住宅設計製図の基礎	模範住宅の図面から、設計に用いる開口部などの記号について説明します。次に、設計製図における線の引き方の基礎を学びます。	設計製図における線の引き方を練習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	住宅図面のトレース1	模範住宅の図面をトレースすることにより、設計図の描き方の基礎を学ぶ。本授業では、平面・配置図を完成させることを目的とする。	平面図・配置図をトレースする。	180
14	住宅図面のトレース2	前授業に引き続き、1階平面図、配置図を完成させる。	平面図・配置図をトレースする。	180
15	住宅図面のトレース3	前授業に引き続き、トレースを完成させることにより、図面を読む基礎的知識を習得する。	製図記号等の基礎的知識を理解し、トレースを完成させる。	180

令和7年度

授業名	消費生活論	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修
担当教員名	◎長谷川　貴弘		
開講期	前期		
授業の概要	大きく変化する社会情勢の中、消費者を取り巻く環境は変化し続けており、消費者問題の内容も時代とともに変貌している。現代における諸問題を把握し、日常生活の中の身近な問題として捉え、学生自らが安全・安心な生活を送ることができるようになることを目指す。また、消費生活に関する法律、政策、行政や企業の取り組みを理解し消費者教育を実践できるようになることを目指す。なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計資料の見方・活用の仕方、法律と行政組織について採り上げていく。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。		
授業の到達目標	下記①～③の目標の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 ①消費者問題の実情を知り、課題を見出し、その解決策の方向性を見出すことができる。 ②日常生活の中で実践することができる自立した消費者の育成のために学生自身の消費者力を高める。 ③政策、法律、行政や企業の取り組み等を理解し、消費者力検定にチャレンジできるだけの能力を養う。		
履修条件	生活科学科　社会福祉専攻　　3年生 生活科学科　建築デザイン専攻 3年生	**成績の 評価方法・基準**	①小テスト30点（15点×２回） ②課題（消費者問題に関するレポート）70点
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	一般財団法人日本消費者協会「消費者力検定ワークブック2021」		
学生への要望	現代消費生活における課題を捉えるために、次のことを要望する。 ①新聞をよく読み、消費生活に関する記事を収集する。 ②消費者力検定に挑戦し、幅広い知識の習得を目指す。		
位置付け・水準	DS2324		
ディプロマポリシーとの関係	論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任		
オフィスタイム	火曜日　2コマ目　木曜日　5コマ目　食品経営学研究室		
アクティブラーニング実施内容	特になし		
実務家教員の経歴	内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的および授業計画について説明（内容、評価方法について等）し、消費者を取り巻く社会経済情勢と消費者行動・意識について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
2	消費者問題の変遷	年代ごとにどのような消費者問題が発生したか概観し、様々な消費者問題の背景にある社会の情勢を読み取る。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
3	消費者行政の変遷①	消費者問題に対応してどのような政策が行われたか概観し、消費者問題に対処するための機関　～消費者庁の誕生、国民生活センター、消費生活センターの役割～について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
4	消費者行政の変遷②	前回に続いて、消費者庁、国民生活センター、消費生活センターの役割について動画教材の視聴等も通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
5	消費者の権利と責任①	消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
6	消費者の権利と責任②	前回に続いて、消費者基本法、消費者の権利と責任、消費者保護の概念について動画教材の視聴なども通じて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
7	自立した消費者を目指して①契約とは	契約の意味、未成年者契約、契約に関するトラブルについて学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
8	自立した消費者を目指して②経済	消費者契約法 ・特定商取引法について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
9	自立した消費者を目指して③食	食品の安全・安心、新しい食品表示制度について学修する。	配布したプリントの内容を読み返して、授業の内容を把握すること。	30
10	自立した消費者を目指して④生活用品	消費生活用製品安全法について学修する。 小テスト（1回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60
11	消費生活と環境～循環型社会のための法制度①	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	消費生活と環境～循環型社会のための法制度②	持続可能な社会の構築と法律、グリーンコンシューマーの概念、持続可能な社会を形成するためのライフスタイルについて学修する。（前回の続き）	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
13	消費者教育・啓発活動	一般消費者に向けてどのような消費者教育が行われているか学修する。	これまでの学修内容を元に、消費者問題についてインターネット、文献、報道資料などを利用して、レポート作成に備えること。	30
14	公平かつ自由な競争の促進	独占禁止法、不正競争防止法、その他各種制度について学修する。	消費者問題について、これまでの学修内容と自身で調べたことを元にレポートを作成する。	60
15	まとめ	消費者力検定とその内容について理解を深め、過去問等にチャレンジする。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をプリントとノートを元に復習すること。	60

令和7年度

授業名	人間環境学	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択
担当教員名	◎影山　志保		
開講期	後期		
授業の概要	生命の維持には空気・水・食品の摂取が必須であることから、健康生活のためにはこれらの質が良好であることが重要である。具体的な環境汚染例としては、ダイオキシン等の有機塩素系化合物や、水俣病の原因物質であるメチル水銀、そして発がん性マイコトキシンであるアフラトキシン、催奇形性でよく知られた医薬品のサリドマイドを事例として、毒性物質の作用機序について、栄養素の代謝などと比較して、学んでいく。国立研究開発法人国立環境研究所での実務経験をもとに、環境問題について講義を行います。 [課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。		
授業の到達目標	この講義では生活環境である空気・水・土壌に着目し、生活環境を汚染している環境汚染物質が、食品や飲料水を介して、人間の健康にどのような問題を起こすのかについて実生活にあてはめ考えていくことを目標としており、内容の8割を理解していること。		
履修条件	特になし	**成績の 評価方法・基準**	①期末試験100点
テキスト	印刷資料提供		
参考書	薬理学関係の書物		
学生への要望	健康生活に必須である生活環境と食品の問題点について学び、実生活中に生かしてもらいたい。		
位置付け・水準	DA2375		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解力、問題解決能力		
オフィスタイム	月から金の5コマ目、食品衛生学研究室		
アクティブラーニング実施内容	なし		
実務家教員の経歴	研究員として国立研究開発法人国立環境研究所に勤務		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	金属元素	食品汚染が問題となった公害として、水俣病・新潟水俣病（メチル水銀）、イタイイタイ病（カドミウム）、ヒ素ミルク事件（ヒ素）がある。環境問題の原点である水俣病の記録映像をまじえて、公害問題について学ぶ。	日本の公害問題にどのようなものがあるのか調べる。	60
2	食品と金属元素	栄養金属元素（K,Na,P,Cl）、毒性金属元素（Hg,As,Cd,pb）、重金属の生体内挙動、食品に含まれる金属とその量、TDI（耐用一日摂取量について学ぶ。	特に日本の環境問題の原点である水俣病と、特に毒性金属元素と人体影響について調べる。	60
3	有機塩素系芳香族化合物	農薬の人体傷害である殺虫剤（DDT,BHC）、除草剤（PCP,2,4,5-T,CNP）、殺菌剤（クロルフェノール）とPCB、ダイオキシンで知られている有機塩素系芳香族化合物による人体傷害について学び、問題点について考える。	農薬の中の有機塩素系芳香族化合物と人体障害性や問題点について調べる。	60
4	食品と有機塩素系芳香族化合物	化学物質の特徴、塩素化による化学変化、有機塩素系芳香族化合物の生体内挙動、多様な毒性、食品中に含有する有機塩素系化学物質とその量について学ぶ。	有機塩素系芳香族化合物の塩素化による化学変化、生体内挙動、毒性、食品中に含有する有機塩素系芳香族化合物の量について調べる。	60
5	大量使用による化合物汚染	人間生活で大量に使用されている化学物質の環境と人体への影響について、大気・水質・土壌汚染の具体的な事例から問題点を学ぶ。	生活の中で多用されている化学物質と環境影響について調べる。	60
6	免疫機構と食物アレルギー	免疫機構（免疫組織、T細胞、体液性免疫、細胞性免疫、樹状細胞）と食物アレルギーについて学ぶ。	食物アレルギーとヒトの免疫機構について調べる。	60
7	食品への健康影響	食品の空気酸化（果物の褐変、魚肉の黒ずみ、高度不飽和脂肪酸の過酸化、小麦の酸化と食品添加物の酸化防止剤）と野菜と土壌肥料（野菜栽培上の要素欠乏と過剰）について学ぶ。	食品の空気酸化について調べる。	60
8	水と調理1	上水道の役割と問題点、原水浄化法、塩素消毒による発ガン性化合物トリハロメタンについて学ぶ。	自分たちが日常使用している上水道の水源と水源とその地域の産業の問題、原水を塩素処理する時の問題点について調べる。	60
9	水と調理2	水道水の製造、トリハロメタンの発生機構と除去方法、生活排水と下水処理について学ぶ。	水道水の製造時に発生する発がん性化合物のトリハロメタンについて調べる。	60
10	サリドマイド1	サリドマイドベビーに関するスウェーデンの記録映像から、催奇形とその発現機構について詳細に学ぶ。	催奇形について調べる。	60
11	サリドマイド2	胎盤血管関門に関する知識を身につけ、各種化学物質の催奇形性に関する資料を参考に妊娠と医薬品について考える。	妊娠期と医薬品について、投薬時の留意点やどんな問題があるのか調べる。	60
12	内分泌攪乱化学物質	ペプチドホルモンと低分子ホルモン（甲状腺ホルモン・ステロイドホルモン）、それらのホルモンの情報伝達方法、低分子ホルモンの類似物質である内分泌攪乱化学物質について学ぶ。	ホルモンの働き、内分泌かく乱がなぜ起こるのか調べる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	遺伝子操作作物と狂牛病	遺伝子操作作物（GMO）の実態と食品表示、GMOが生産したタンパク質が問題となる理由について学ぶ。また、狂牛病の病原物質である病原物質プリオンについて学ぶ。	遺伝子組み換え作物の現状、食品表示のルールを調べる。また、狂牛病について調べる。	60
14	生体と化学物質1（毒素）	毒素の作用機構、受容体での結合、毒素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	毒素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。	60
15	生体と化学物質2（栄養素）	栄養素の作用機構、受容体での結合、栄養素の吸収・分布・代謝・排泄、停止する生命連鎖について学ぶ。	栄養素がどのように体で吸収し、作用するのか調べる。	60

令和7年度

授業名	家族関係学	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 必修
担当教員名	◎知野　愛		
開講期	前期		
授業の概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。 最終回に、筆記試験採点後の答案を返却しフィードバックを行います。		
授業の到達目標	達成目標は、筆記試験で7割以上の得点となること。 単位認定の最低基準:内容の7割を理解していること。		
履修条件	特になし	**成績の 評価方法・基準**	筆記試験(50点)、課題提出物(50点)
テキスト	特に指定しない		
参考書	園井ゆり監修『第4版　家族社会学　基礎と応用』九州大学出版会　2022年		
学生への要望	授業テーマに関連する新聞記事や書籍を積極的に読み理解を深める。		
位置付け・水準	位置づけ・水準:生活科学科DS2413、食物栄養学科FN2403、専攻科文化学専攻・専攻科幼児教育専攻:専門関連科目		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、2)課題解決力		
オフィスタイム	火曜Ⅱ限、Ⅲ限　地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)		
アクティブラーニング実施内容	課題としてミニレポート作成が数回ある。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき授業概要・目標、成績評価法、今後の授業予定等を説明した後に、家族の定義について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚選択への過程、結婚について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に関する社会学的視点、家制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の勢力関係と情緒関係等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー・事実婚における親子関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
10	少子化と子育て支援	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、少子化対策、少子化の要因と背景等を考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
11	児童虐待と里親制度	児童虐待とその背景、里親制度の展開と意義、児童福祉の将来展望について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
12	中高年世代と家族	中高年世代と家族変動、ロスジェネ世代が抱える問題、中高年者の社会的孤立、支援の仕組み等について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
13	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、家族政策と高齢者介護等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	授業全体の振返り・筆記試験	授業全体の内容を振り返り、理解度を確認するために筆記試験を実施する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
15	筆記試験の結果講評・フィードバック	筆記試験の結果を返却し講評、フィードバックする。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

令和7年度

授業名	家族関係学	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 必修
担当教員名	◎知野　愛		
開講期	前期		
授業の概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。 最終回に、筆記試験採点後の答案を返却しフィードバックを行います。		
授業の到達目標	達成目標は、筆記試験で7割以上の得点となること。 単位認定の最低基準:内容の7割を理解していること。		
履修条件	特になし	**成績の 評価方法・基準**	筆記試験(50点)、課題提出物(50点)
テキスト	特に指定しない		
参考書	園井ゆり監修『第4版　家族社会学　基礎と応用』九州大学出版会　2022年		
学生への要望	授業テーマに関連する新聞記事や書籍を積極的に読み理解を深める。		
位置付け・水準	位置づけ・水準:生活科学科DS2413、食物栄養学科FN2403、専攻科文化学専攻・専攻科幼児教育専攻:専門関連科目		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、2)課題解決力		
オフィスタイム	火曜Ⅱ限、Ⅲ限　地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)		
アクティブラーニング実施内容	課題としてミニレポート作成が数回ある。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき授業概要・目標、成績評価法、今後の授業予定等を説明した後に、家族の定義について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚選択への過程、結婚について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に関する社会学的視点、家制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の勢力関係と情緒関係等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー・事実婚における親子関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
10	少子化と子育て支援	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、少子化対策、少子化の要因と背景等を考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
11	児童虐待と里親制度	児童虐待とその背景、里親制度の展開と意義、児童福祉の将来展望について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
12	中高年世代と家族	中高年世代と家族変動、ロスジェネ世代が抱える問題、中高年者の社会的孤立、支援の仕組み等について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
13	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、家族政策と高齢者介護等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	授業全体の振返り・筆記試験	授業全体の内容を振り返り、理解度を確認するために筆記試験を実施する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
15	筆記試験の結果講評・フィードバック	筆記試験の結果を返却し講評、フィードバックする。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

令和7年度

授業名	情報処理演習	**配当年次 単位数**	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎山口　猛 佐々木　達矢		
開講期			
授業の概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成・表計算について学習する。 フィードバックとして、未提出物がある場合や自学自習欄の提出物の内容が不十分である場合などは追加課題の実施等を行う。		
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること		
履修条件	なし。	**成績の 評価方法・基準**	達成目標の到達度合いは提出物・課題により評価する。内容毎に課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は提出物を１５％、課題１を１５％、課題２を３５％、課題３を３５％とする。
テキスト	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office 365・Office 2021対応、noa出版 (2022)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
位置付け・水準	GU1120		
ディプロマポリシーとの関係	「他との協調」「人間形成」		
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限　芸術館2階No.3地域創成学科研究室		
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施		
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえ、インターネットを利用するためのセキュリティーについて触れる。	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。 メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。 また Email を利用するためのセキュリティについて学ぶ。 ローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30
4	課題1	インターネット (ブラウザ・メールなど) の用法について、正しく利用できるか確認をする。 また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味の理解とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	復習として、日本語変換の方法を再確認し、教科書の練習6を行ってみること。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト1・確認テスト2を実施すること。 提出用課題を実施し、指定の期日までに提出すること。	80

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となるExcel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみること。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.141までを読んでおくこと。このほか提出用課題を実施し、指定の期日までに提出すること。	80
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題 3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

令和7年度

授業名	社会福祉調査の基礎	**配当年次 単位数**	短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択
担当教員名	◎長谷川　貴弘		
開講期			
授業の概要	社会福祉調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会福祉調査への理解を深めることを目標としたい。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。 【実務経歴】 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点後、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。 【位置づけ・水準】　DS2316		
授業の到達目標	【単位認定の最低基準】　社会福祉調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の８割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】　論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
履修条件	生活科学科　社会福祉専攻　　3年生 生活科学科 建築デザイン専攻 3年生	**成績の 評価方法・基準**	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社		
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。		
位置付け・水準	DS2316		
ディプロマポリシーとの関係	論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
オフィスタイム	月曜日　4コマ目　木曜日　4コマ目　経営管理学研究室		
アクティブラーニング実施内容	第14回にて、パソコンを用いた実習形式の授業を行う。		
実務家教員の経歴	内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会福祉調査（社会調査）とは何か	授業の進め方、評価方法について。 社会福祉調査（社会調査）とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
14	調査報告とデータの管理 （パソコンを用いての実習）	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト（2回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

令和7年度

授業名	総合英語Ⅰ	**配当年次 単位数**	家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択
担当教員名	◎ダニエル　ホーナー		
開講期			

授業の概要	総合英語Ⅰ (Comprehensive English 1) for Life Science Department Students for 2025-2026. CLASS OVERVIEW: A. Students express themselves through a self-introduction in active learning environments. B. Describe characteristics and personalities of others through active learning. C. Talk about your family and their profiles in active learning group presentations. D. Take a comprehensive written examination. E. Active learning is substantially utilized in every lesson! FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student, but also the diversity of all of the students.		
授業の到達目標	CLASS GOALS: 1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on English communication and listening through numerous active learning situations. 2. Students will learn how to self-evaluate their coursework, ways to improve their ability on homework, quizzes and reports, and how to become active learners to truly increase English proficiency. 3. The minimum standard to receive 2 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, the Mini-Test, homework and the Final Test.		
履修条件	大１年生 活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択	**成績の 評価方法・基準**	1. Attitude, Homework, Actively Learning - (10%) 2. Multiple Choice Mini-Test - ミニテスト (40%) 3. Multiple Choice Final Test - ファイナルテスト (50%) "Multiple Choice Test" in Japanese is「選択テスト」.
テキスト	Textbook: "Impact CONVERSATION 1" by Kristen Sullivan and Todd Beuckens. Publisher: Pearson and Longman. ISBN: 978 - 962 - 01 - 9933 - 2 The textbook can be used for two years; for example, this same textbook can be used for both Comprehensive English I and Comprehensive English II. (この教科書は2年間使用できます。例えば、この同じ教科書は総合英語Iと総合英語IIの両方に使用できます。)		
参考書	Prints and reference materials produced by the instructor.		
学生への要望	1. Please attend all classes and be active learners during every class. 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own. 3. Always do the classwork, coursework, and listen to the CD audio tracks. 4. Study hard for the Mini-Test and Final Test. 5. Frequently read and review the data posted on the MOCA Page.		
位置付け・水準	位置付け・水準 (ナンバリング)はGU1117です。		
ディプロマポリシーとの関係	The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Cooperation with Others" and "Human Development."		
オフィスタイム	Mondays and Wednesdays, 5th period (16:20 ~ 17:50), and by appointment, at 創学館４Ｆ No.1 研究室, and sometimes other locations. I'll help you any time you need help!		
アクティブラーニング実施内容	Active learning is used in every lesson through methods including class discussions about relevant subjects, small group discussions for debate and frequent speaking opportunities, pair work for thoughtful discussions, and the "Think-Pair-Share" method to promote creativity in active learning.		
実務家教員の経歴	Instructor for this course taught English at Koriyama Women's University Attached High School for 19 years. (このコースのインストラクターは、郡山女子大学附属高等学校で 19 年間英語の教員として勤務しました。)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Introduction, Guidance and Unit 1	Guidance about the textbook, tests, quizzes, homework, attendance, etc. Active Learning: Interview classmates to ascertain information about them. Unit 1 - Guess Where I'm From: Pages 8-9, 81, CD Tracks 2-8. Teach students about some AI learning resources like "Copilot" and "ChatGPT."	Review Unit 1, Listen to CD Tracks 1-8.	120
2	Unit 1 - Conversation Starters	Unit 1 - Guess Where I'm From: Getting background information from others. Watch an Internet video about requesting background information. Active Learning: Share basic personal information in groups. Pages 9-11, 81, CD 2-8.	Review	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	Unit 1 - Personal Questions	Unit 1 - Asking Personal Questions: Who are you like? Asking personal questions to classmates. Active Learning: Presentations of detailed personal profiles in groups. Pages 11-12, 81, CD 2-8.	Review	120
4	Unit 2 - Comfy Seats	Unit 2 - Comfy Seats: Expressing preferences. Active Learning: Listen to determine entertainment preferences of five people. Pages 13-16, 82, CD 9-15.	Preparation	120
5	Units 2 and 3 - The Art Gallery	Unit 2 Review. Unit 3 - Pastimes: Describing your own pastimes. Watch and practice an Internet video about expressing entertainment preferences. Introduction to additional Internet resources. Active Learning: Pair work to express preferences about genres of music and movies. Pages 17-18, 83, CD 14-22.	Review	90
6	Units 3 and 4 - My Quirky Family	Unit 3 Review. Unit 4 - My Quirky Family: Describing family members and personalities. Active Learning: Presentations on pastimes in groups. Pages 19-23, 84, CD 21-26.	Preparation	120
7	Unit 4 - Family Relationships	Unit 4 - Describing Family Relationships. Active Listening: Listen to determine the feelings and complexities of family relationships. Pages 23-24, 84, CD 23-29.	Review all materials and study hard for the Mini-Test.	150
8	Units 4 and 5 - Scaredy Cat, Mini-Test	Unit 4 Review. Unit 5 - Scaredy Cat: Expressing Fears. Researching iconic artists. Active Learning: Presentations in groups about your own family. Pages 24-27, 85, CD 27-30. Students take the Mini-Test (the Mini-Test is a Midterm Test).	Preparation	120
9	Unit 5 - Scaredy Cat	Unit 5 - A Board Game: Playing a game about scary things. Active Learning: Listen to ascertain what people are afraid of. Pages 27-28, 85, CD 30-36.	Review	120
10	Unit 6 - The Commute	Unit 6 - Commutes: Discussing commutes to university. Watch and practice an Internet video about getting around town. Introduce more Internet resources. Active Learning: Interview classmates to learn about their commutes. Pages 29-30, 86, CD 37-44.	Write an essay on commutes.	90
11	Unit 6 - Complaints	Unit 6 - Dislikes: Expressing dislikes and complaints. Active Learning: Group discussion on the reasons people dislike commutes. Pages 31-32, 86, CD 37-44.	Review	120
12	Units 1-6 Review	Comprehensive Review of Units 1-6. Complete grammar and conversational exercises to review all the previous units. Active Learning: Presentations in groups about topics and information gleaned form Units 1-6.	Review	90
13	Unit 7- A Close Shave	Unit 7 - A Close Shave: Talking about dangerous experiences. Active Learning: Listen to determine what kinds of incidents happened to people. Pages 33-36, 87, CD 45-49.	Review	120
14	Unit 8 - Excuses	Unit 8 - Excuses: Expressing healthy habits. Watch an Internet video about various countries and their foods. Active Learning: Conversations in pairs to articulate healthy eating habits. Do a comprehensive review for the Final Test. Pages 37-40, 88, CD 50-56.	Review Units 1-8 in the textbook and study all course materials to prepare for the Final Test.	120
15	Conclude Unit. 8. Comprehensive Review for Final Examination, Final Test	Finish and review Unit 8. Conduct a comprehensive review for the final written examination. Active Learning: Group work where students do a cumulative review of the course by asking each other questions from Units 1-8. Pages 9-40, CD 2-56. Students take the Final Test today. So there is no Final Test during the regular testing period.	The Final Test is today. So before this lesson, study, review and prepare for Final Test.	240